



千葉大学医学部同窓会報 第195号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 るのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1 千葉大学医学部内 るのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : https://www.inohana.jp/



令和6年度 るのほな同窓会総会開催



令和6年度るのほな同窓会総会が令和6年6月8日(土)午後2時半よりトラスティカンファレンス・丸の内、会場とZoom利用によるWebのハイブリッドで開催された。

安西直彦理事の司会により開会となり、会議に先立ち物故者70名の冥福を祈り黙祷を捧げた。吉原俊雄会長の挨拶の後、各議事、るのほな同窓会賞規定については吉原会長より、医学部150周年記念事業については栗原正利副会長、白澤浩副会長より説明があり、議事はすべて審議・了承された。(議事要旨は33面に掲載)

総会に引き続き令和6年度るのほな同窓会賞社会貢献賞、功労賞の表彰式が行われ、特別顧問の三木隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長、大鳥精司千葉大学医学部附属病院長よりビデオメッセージによる挨拶があった。続いて横須賀忠理事の司会で、池田啓氏による「自己免疫性疾患の脱ステロイド治療」、吉原会長の司会で奥村康氏による「我が千葉大学」の講演会が行われた。(講演内容は次号196号に掲載)懇親会では和やかな歓談の時を過ごした。

- 祝 叙 勲
令和5年 秋の褒章
紫綬褒章
大野 博司(昭56)
第12回日本医師会
赤ひげ大賞
清水 三郎
(日本医大・昭42)
高齡者叙勲
瑞宝双光章
海保 允(昭35)
成田 静子(昭35)
令和6年 春の叙勲
瑞宝小綬章
平田 豊明(昭52)
瑞宝双光章
時田 信博(昭43)
武藤 護彦
(東邦大・昭47)
石場俊太郎(昭45)、花輪孝雄(昭45)、山崎章郎(昭50)、吉原俊雄(昭53)、奥村康(昭44)、笠貫宏(昭42)、諏訪敏一(昭43)、松原久裕(昭59)、栗原正利(昭54)
2列目：中村哲雄(昭49)、西川哲男(昭47)、佐藤兼重(昭51)、中村真人(昭54)、高林克己(昭50)、松前孝幸(昭52)、廣田勝太郎(昭55)、白澤浩(昭57)、和田佑一(昭58)、赤倉早苗(昭59)、松永康聖(薬学2)
3列目：河田誠(昭50)、草刈隆(昭35)、須藤壮一郎(昭44)、宮本恒彦(昭54)、幡野雅彦(昭57)、横須賀忠(平5)、浅井隆善(昭49)、赤倉功一郎(昭59)、伊藤壮司(薬学3)、土山菜苗深(看護3)、上野真幸(医学部2)
4列目：吉原晋太郎(平21)、黄舜範(平6)、齊藤光江(昭59)、小宮山伸之(昭58)、諏訪園靖(平6)、陳裕仁(平6)、高橋宏和(平11)、森本直樹(平3)、龍野一郎(昭57)、池田啓(平9)

第29回(2024年度)るのほな同窓会賞 受賞者決定
上田真喜子
(大阪公立大学名誉教授
日本医師会代議員、大
阪府医師会勤務医部会
参与、昭50年卒)
「女性医師のキャリア形成・ジェンダー平等の確立を推進」

社会貢献賞
山崎 章郎
(日本死の臨床研究会顧問、認定NPO法人コミュニケーションケアリンク
東京理事長、昭50年卒)
「多くの患者に寄り添い、ホスピス・緩和ケア一筋に歩まれた功績」

紙面紹介
総会開催 2~3・5 1
就任挨拶 2
人事異動 3
卒業祝辞 4
叙勲感想 5
受賞の挨拶 6
退任挨拶 7
各地るのほな会 8
クラス会 9
研修プログラム 10
追悼文 11
地区るのほな会報 12
地区るのほな会報より転載 13
欧州医学史巡り 14
学内情報 15
会員より 16
著書紹介 17
タツチパネル 18
雑文雑談 19
日本医師会認定産業医研修会 20
議事要旨 21
DUO寄付状況 22
編集後記 23
32
36 35 34 31 30 28 29 28 27 24 23

るのほな同窓会 卒後50周年基金 への寄付
玉置 哲也先生(昭38) 十万円
ありがとうございました。

# 千葉大学長就任にあたって

千葉大学長 横手 幸太郎 (昭63)



令和6年(2024年)4月1日付けで、第16代千葉大学長に就任しました。

新制国立大学としての発足から75年、さらに、その前身である千葉師範学校や千葉医科大学(元は共立病院)まで起源を遡ると、今年でちょうど150年となる歴史を有する千葉大学を、未来へ向けてさらに発展させるべく全力を尽くす所存です。

私は、昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、当時の第二内科へ入局、吉田尚教授・齋藤康教授をはじめとする多くの先生方にご指導を賜りました。2009年に第二内科の後継教室である細胞治療学(現内分泌代謝・血液・老年内科学)の教授となり、内科学を中心として研究・診療・教育に従事し、2011年から医学部附属病院の副病院長、2015年からは医学研究

院の副病院長をそれぞれ併任したのち、2020年4月に病院長を拝命しました。

折しも新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まった時期と重なり、絶体絶命と感じる危機に幾度も見舞われましたが、病院教職員の頑張りや学内外の皆様への応援により、さまざまな変革や発信につなげるなど、ピンチをチャンスに変える運営ができたと感じております。この間、国立大学病院長会議の会長と2022年からは全国医学部長病院長会議の会長を務め、日本の大学病院と医学部の先頭に立って、コロナ対応や医師の働き方改革、物価や光熱費の高騰などの課題を乗り越えるべく政府等との交渉にあたったことは貴重な経験となりました。

国立大学は、2004年の法人化によって、自由で自律的な大学運営が可能となった反面、国からの運営費交付金が毎年削減され、厳しい経営状況に直面しています。少子化と人口減少が進む中、これまでと同じ

大学像を描くだけでは、発展はもとより、存続さえ危ぶまれる時代が来るでしょう。そのような状況にあつて、輝かしい歴史を陰らせることなく、より高いレベルで研究と教育、病院においては医療を実践し、社会へ貢献し、信頼され、親しまれ、誇りとされる千葉大学を、教職員・学生とともに創っていきたくと考えます。

大学全体の運営に携わるようになり、日々の意思決定に、病院長時代の経験がとても役立っていると実感しています。病院では、患者第一の医療の実践を通じて、教職員の心が一つになります。大学においては、学生が第一であり、学生を中心に据えた教育・人材育成・研究の実践に向けて、対話を重ねていくことで、学部や専門性を超えた連携が強まっていくものと信じています。

最後に、嬉しいニュースがあります。千葉大学が文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」(PEAKS)への申請

に、全国国公私立69大学による応募の中から12大学の一つとして採択されました。この申請は、2023年末に急逝された故中山俊憲前学長が、最期まで文字通り命がけで取り組まれました。東北大学が選定候補となった国際卓越大学に続く地域版とも位置付けられるこの事業に本学が選ばれたことの意義は大きく、次の10年の飛躍を期して今年度新たに戦略本部を設置し、全学

## 令和5年度 教授就任

を挙げて活動を開始したところでは、時代の風を前進する力に変えて、研究のさらなる深化と教育の充実、グローバル化、学際性の向上を図り、「より、高きものをめざして」いきたく思いますので、おのほな同窓会会員の皆様におきましては、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

猪爪 隆史(山梨医大・平10) 千葉大学大学院医学研究院 皮膚科学  
樋口 佳則(平4) 千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学  
小野寺 淳(平18) 国際高等研究基幹・災害治療学研究所  
中嶋 博之(平7) 秋田大学  
池田 啓(平9) 獨協医科大学  
リウマチ・膠原病内科

藤本 善英(平5) 国際医療福祉大学 医学部循環器内科学  
並木 隆雄(昭60) 国際医療福祉大学成田病院 予防医学センター  
照井 慶太(平10) 自治医科大学 外科学講座(小児外科部門)  
横内 裕敬(平13) 帝京大学ちば総合医療センター 眼科

篠崎広一郎(平14) 近畿大学医学部 救急医学教室  
坂尾誠一郎(平5) 国際医療福祉大学 医学部呼吸器内科学



国立大学法人 千葉大学 2024年4月24日 大学からのお知らせ

### 横手学長が春の園遊会に招かれました

4月23日(火)、天皇皇后両陛下が主催する春の園遊会が東京都港区の赤坂御苑で開かれ、横手幸太郎学長が招待されました。

横手学長は、各界功績者(特に教育・研究などの分野で功労のあった者)として、ご夫妻で招かれました。

当日は、行政・立法・司法各機関の要人(衆・参両院の議長、副議長、議員、内閣総理大臣、国務大臣、最高裁判所長官、判事等)及び都道府県の知事・議会議長、市町村の長・議会議長、各界功績者が配偶者とともに約1,400人が出席しました。



# 千葉大学医学部附属病院長に就任して

## 整形外科学 大鳥 精 司 (平6)



令和6年(2024年)月1日より病院長に就任させて頂きました。横手幸太郎前病院長のご指導のもと、副院長として4年間、コロナ禍において病院経営・将来計画再開発、診療・人事などを担当し、病院運営にも取り組んでまいりました。

昨年、コロナが5類に移行し、一連の対応に節目を迎えましたが、2024年4月からは、いよいよ「医師の働き方改革」が本格的にはじまりました。医師に限らず、すべての職員が健康で、仕事に充実感が感じられる職場づくりにも注力してまいります。自身の経験から高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、医療安全管理部および各科・各部門/リスクマネージャーとの連携を密にして適切なガバナンスをもって、患者の安全

を第一とした診療体制を目指したく思います。

整形外科学講座において、教授職にて8年間が経過しましたが、現在、大学には、脊椎・関節・スポーツ医学、リウマチ、上肢・手の外科、足の外科、外傷、骨転移腫瘍などの診療・研究グループ、更には、骨軟部腫瘍、小児整形、リハビリテーションを含んだ60に及ぶ教育関連施設を配置しており、本年開講70年、同門会員の数は700名となっております。多くの優秀な若手が育つてそれぞれの分野で牽引してくれており、今回後押しして頂きました。

病院長として、私が最も重視したい点は、多様性と若手からの意見のくみ上げです。柱の数が多岐にわたりますが、強固なものはありません。上司が裸の王様にならないよう、若手の意見を傾聴し、共鳴し、新たなプランを立案することが重要だと思っております。そのため、異なる視点から意見を出し合い、一つの方向に力を合わせることでできる風通しのよい組織体制を整えて

てまいります。

私は座長として医学研究院ブランドデザイン将来構想の改定を担当しました。その中で特に重要な点は、「治療学」の研究推進、「治療学研究者・治療学研究医」の育成、基礎系と臨床系の融合、教員組織の機能一体化であります。さらに、千葉大学病院ビジョン2040のステートメント作成を担当しました。千葉大学病院は、千葉県における確固たる拠点病院・研究機関として、2040年に向けた課題に挑戦すること、その中で、診療、運営、研究・開発、教育・人材の4つの取り組みを掲げました。特に研究促進・研究費獲得、優秀な人材確保は、今後の千葉大学病院がより高みを目指すべき目標と考えております。

さて、千葉大学医学部および附属病院は2024年7月、創立150年を迎えます。これまでの伝統を受け継ぎ、さらなる発展に向けて、未来への希望を持ち続けながら、千葉県のみならず全国の団結力を強めて

いきたいと考えております。今後ともご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 人事異動

教授

麻酔科学

長谷川麻衣子 (鹿児島大・平12)

呼吸器病態外科学

鈴木 秀海 (平13)

社会精神保健教育研究センター

金原 信久 (東北大・平13)

准教授

脳神経外科

松谷 智郎

分子腫瘍学

星居 孝之 (近畿大・平14)

同講師より

環境生命医学

鈴木 崇根 (平11)

同講師より

口腔科学

笠松 厚志 (日大松戸歯・平11)

病院講師より

予防医学センター

中込 敦士 (平19)

特任助教より

麻酔・疼痛・緩和医療科

黄野 皓木 (平7)

同講師より

こどものこころ診療部

佐々木 剛 (秋田大・平14)

同講師より

講師

脳・神経治療学研究講座

木村 敦史 (平18)

小児外科

武之内史子 (平12)

同助教より

社会精神保健教育研究センター

仲田 祐介 (山梨大・平19)

精神医学助教より

予防医学センター

山本 緑 (千葉大薬・昭61)

法医学教育研究センター

吉田真依子 (鳥取大・平9)

脳神経外科

廣野誠一郎 (平16)

脳神経外科学助教より

小児外科

小松 秀吾 (平21院博士)

他大学教授

順天堂大学薬学部

粕谷 善俊 (東京理大薬・昭60)

病院長

千葉市立青葉病院

六角 智之 (昭63)

船橋市立医療センター

茂木 健司 (昭63)

その他

病院事業管理者

千葉市 山本 恭平 (昭57)

船橋市 丸山 尚嗣 (昭57)

加藤 厚 (平元)

副院長 (副病院長)

田中 尚武 (昭59)

副院長 (医療局長)

井内 俊彦 (岡山大・昭63)

医療局長 (医療局診療部長)

加野 将之 (平14)

医療局診療部食道・胃腸外科部長 (主任医長)

賀川 真吾 (平14)

## 千葉県職員人事異動

病院長

がんセンター

加藤 厚 (平元)

副院長 (副病院長)

田中 尚武 (昭59)

副院長 (医療局長)

井内 俊彦 (岡山大・昭63)

医療局長 (医療局診療部長)

加野 将之 (平14)

医療局診療部食道・胃腸外科部長 (主任医長)

賀川 真吾 (平14)

医療局診療部肝胆膵外科部長 (主任医長)

徳元 秀樹 (金沢大)

医療局診療部形成外科部長 (主任医長)

塚田 司 (浜松大・平6)

医療局診療部脳神経外科部長 (主任医長)

北川 善康 (平20)

主任医長 (医長)

水藤 広 (平20)

主任医長 (医長)

総合救急災害医療センター

幸部 吉郎 (平12)

主任医長 (新採)

こども病院

皆川 真規 (平元)

病院長 (副病院長)

仲野 敦子 (平2)

副院長 (診療部長)

数川 逸郎 (山形大・平15)

医療局長 (診療部長)

鶴岡 智子 (平14)

周産期センター新生児内科部長 (主任医長)

循環器病センター

岡原 陽二 (平20)

主任医長 (医長)

佐原病院

角田 慎輔 (平12)

診療部外科部長 (主任医長)

坂本 洋右

主任医長 (新採)

加賀 勘家

主任医長 (医長)

健康福祉センター長・保健所長

杉戸 一寿 (平元)

習志野・松戸健康福祉センター長

習志野・松戸保健所長

習志野健康福祉センター長

習志野保健所長

千葉県職員より退職

藤里 正視 (昭59)

がんセンター病院長

中島 弘道 (昭58)

こども病院長

山本 尚人 (三重大・昭60)

がんセンター医療局診療部長

千葉市職員人事異動

心の健康センター

所長

野々村 司 (平10)

千葉市職員人事異動

心の健康センター

所長

野々村 司 (平10)

千葉市職員人事異動

心の健康センター

所長

野々村 司 (平10)

千葉市職員人事異動

心の健康センター

所長

野々村 司 (平10)

千葉市職員人事異動

心の健康センター

所長

野々村 司 (平10)

千葉市職員人事異動

心の健康センター

# 令和5年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

令和6年3月22日 (金)

るのほな同窓会長 吉原 俊雄 (昭53)



千葉大学医学部のるのほな同窓会会員を代表して一言お祝いを述べさせていただきます。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆さまにおかれましても、長く待ち望んだ晴れがましい日であり、期待に胸膨らむ日となったこと存じます。

千葉大学医学部での教育課程をすべて修め、まさに医師としてのスタートラインを迎えたことになりましたが、くしくも本年は千葉大学医学部創立150周年であり、皆さんは本学の今後の歴史を作っていく節目の卒業生となります。

また本学の教育スタッフ、病院実習でご協力いただいた多くの教職員の方々に対しても改めて感謝申し上げます。

ます。皆さんが、この「るのほな地」で学生生活を謳歌し、クラブ活動や様々な活動を通じて知り合った同級生、そして先輩や後輩との交流は今後の人生にとって貴重な宝物となるでしょう。

さて、皆さんはすでに同窓会の学生会員です。るのほな同窓会の目的は、「会員の親睦」と「医道の昂揚」であります。医学部、病院の発展に寄与するとともに、学生さんには「白衣式」、「ちばBCRC」、「クラブ活動東日本医科学生総合体育大会、亥鼻祭、同窓会館の利用」などの様々な支援を行っています。卒業後、皆さんは7000人余りの同窓会の新たな会員として加わり、後輩の学生さんの支援を行う立場になります。

同窓会事業の一つとして、一昨年に閉館されました旧医学部棟(旧病院)の歴史の編纂と記録動画の制作事業が完成し、現在は記念の文集・写真集を編纂中です。

昭和11年に開院した旧病院は当時「東洋二」と称され、千葉医学の伝統が刻まれたシンボルとなっております。医学部だけでなく大学全体の唯一無二の建造物です。昨年は東京新聞や千葉日報の取材を受け建造物としてのその価値について新聞1面や社会面を飾りました。

皆さんはこれから研修生活を経て、臨床医、研究職、行政、海外留学と様々な分野に進まれ、その地域も千葉大学病院、千葉県内の施設、さらに東京はじめとする他府県の施設へと多岐に渡ると思いますが、本学卒業生として周囲も必ず見ていると思って自覚してください。この2年弱で同窓会報に紹介した教授就任は千葉大以外の大学でも20人余りとなります。一昨年は同窓の一人が史上最年少で長崎県知事に就任され活躍しています。

皆さんの将来も前途洋々です。どうぞ自分自身で将来の進む道を選択し、努力惜しまず邁進してください。若い頃は気になりませんが、ある程度のポジションに就きますと好むと好まざるに係わらず、千葉大学出身ということが表に出てきます。

その折は同窓会として、また各地のOBができる限り支援したいと思えます。ご卒業本当におめでとうございました。あらゆる方面で頑張ってください。期待しております。



## 謝恩会



## 第118回医師国家試験成績

試験日	令和6年2月3日(土)
	4日(日)
合格発表	令和6年3月15日(金)
受験者	115名(新卒者 108名)
合格者	111名 合格率 96.5%
	(新卒者 106名 合格率98.1%)
参考	国立 合格者 4,955名
	合格率 92.9%
	全国 合格者 9,547名
	合格率 92.4%

## 学長表彰

令和5年度 医学部受賞者 成績優秀賞

藤井 貴大 (医6)

学術研究活動賞

米岡 遼太郎 (医6)

(学年は令和6年3月現在)



令和5年度 卒業証書・学位記伝達式

# 就 任 挨 拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 麻醉科学 教授

長谷川 麻衣子 (鹿児島大・平12)



千葉大学のはな同窓会の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和6年(2024年)4月1日付で、磯野史朗前教授の後任として東京大学大学院医学研究科疼痛緩和病態医学講座より赴任してまいりました長谷川麻衣子

略 歴	
2000年	鹿児島大学医学部医学科卒業
2005年	久留米大学大学院医学研究科修了
2005年	久留米大学分子生命科学研究所遺伝情報研究部門 助手
2006年	スタンフォード大学神経内科学講座 博士研究員
2008年	順天堂大学医学部麻醉科学・ペインクリニック講座 助教
2011年	鹿児島大学医学部麻醉蘇生学講座 助教
2012年	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院麻醉全身管理センター 講師
2013年	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院手術部講師
2015年	鹿児島大学医学部麻醉蘇生学講座 准教授
2019年	信州大学医学部附属病院手術部 准教授・副部長
2021年	東京大学大学院医学系研究科疼痛・緩和病態医学講座 特任准教授
2024年	千葉大学大学院医学研究院 麻醉科学研究領域 教授

最も重要な課題と考えております。また、麻酔の3要素は鎮静・鎮痛・筋弛緩から成りますが、鎮痛はペインクリニック・緩和の分野に生かされ、鎮静は鎮静下の検査・処置等、手術室外におきましても麻酔科医による全身管理の要望は増していると感じております。蘇生の知識・技術は救急・集中治療の分野で応用されています。大病院だけでなく、どの地域におきましても麻酔が安全に行われる体制を実現することを目標に、臨床・教育体制を整えていきたいと考えています。

近年、手術件数は急増し、麻酔科医不足と偏在が問題となっております。現状では、多くのご同門の先生方が、十分な人員確保の困難な状況下で、地域の手術麻酔を担っていらっしゃいます。私の使命は、患者の安全を担う麻酔科医のやりがいや若手医師や医学部学生へ伝え、多くの麻酔科医を千葉大学から送り続けることに尽きます。麻酔科医が手術室の麻酔で培った経験を、救急・集中治療、ペインクリニック・緩和の領域でも活かし、急性期から慢性期を通して全身管理を担う教室を作りたいと考えております。

## 千葉大学

### 社会精神保健教育研究センター 病態解析部門 教授

金原 信久 (東北大・平13)



令和6年(2024年)4月1日付で千葉大学社会精神保健教育研究センター・病態解析部門の教授を拝命致しました。千葉大学医学部及び附属病院、また千葉大学精神神経科の同門の先生方にはこれまで大変お世話になり、精神科医として臨床また研究を進めてくることが出来ました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は平成13年に東北大学医学部を卒業し、同年千葉大学医学部附属病院精神神経科に入局致しました。その後関連病院で貴重な臨床経験を積みまし。平成17

千葉県の医学・医療の発展のために、大学と地域の緊密な連携がこれまでに大きく問われている時代です。安全な周術期医療を普及するために、全力で取り組む

所存ですので、千葉大学のはな同窓会の皆様方にはよろしくご指導・鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

で助教として臨床にも復帰致しました。現在研究テーマである統合失調症の臨床研究は、この時期にご指導頂いた伊豫雅臣先生の治療に関する考え(仮説)に強い影響を受けています。自分が精神科医として働き出した頃の精神科医療は多剤による薬物療法の利点も囁かれた最後の時期でした。抗精神病薬の使い方に関して、学術論文で書かれていた内容と実臨床での実際には大きな乖離があり、何が正しいかを教えてくれる指針は無い状態でありました。伊豫先生はここにドパミン過感受性精神病(DSP)という概念を教えてください、この考えは臨床で診る患者さんと医学論文の中にある脳科学的・薬理学的知見の両者を両立させる衝撃的な考えでありました。そして伊豫先生はこのDSPに対する薬物療法の方針までご指示されたのですが、この考えを臨床の場で自信を持って実践することに、さらに長い時間を要しました。その間本邦の精神科臨床に登場したクロザピンと持効性注射剤を用いることにより、いつの間にか自分のDSPを理解できるようになり、いつの間にか自分は学術の分野では賛否両論

**令和6年度総会において選出**

名誉会員

三科 孝夫 氏 (昭46)

栗原 正利 氏 (昭54)

あるDSPの存在を信じるに至っています。

社会精神保健教育研究センターでは、精神障害を有する方の触法行為に対する制度的観点からの研究・教育を重要な柱としています。この分野は社会的な要請が大きいかと思います。一方で精神障害を有する患者さん、またご家族の様々な苦しみや負担についても、我々精神科医にとっては重要な課題であります。私は社会精神保健教育研究センターでの臨床及び研究活動として、これらを両立する研究活動をする必要があると考えております。これまでの経験を踏まえつつも、皆さまのご指導・ご鞭撻を得ながら進めて参る所存です。宜しくお願ひ申し上げます。

### 順天堂大学

薬学部・薬理学分野 教授

粕谷善俊 (東京理大薬・昭60)



この度、令和6年(2024年)4月1日付で順天堂大学薬学部薬理学分野教授を拝命致しました。これまでご指導・ご支援くださった皆様にご感謝申し上げます。

私は昭和60年に東京理科大学薬学部薬学を卒業後、筑波大学・真崎生先生に師事し、基礎医学系薬理学グループで修士課程・博士課程を過ごしました。ちょうど、博士課程の開始時に研究室内で生理活性ペプチド・エンドセリンが、当時大学院生であった柳沢正史先生らによって発見されました。幸運にも、その強力な血管収縮メカニズムの解析という最も興味深いテーマを担当する機会に恵まれました。それを機に、生体反応における細胞内シグナル変化を覗くことに興味を覚えました。カルシウムイオンの

学部の異浩一郎名誉教授、鈴木拓二教授より、これまで多くの大学院生を預けていただきました。また、自身が指導した non MD の博士課程学生が卒業後に正規の研究職に就く前に、特任教員として採用しやすいシステムも整っていたため、若い研究者の将来を考える上でも大いに恵まれていたと感じています。そのような環境の中、細胞内リン酸化シグナルに焦点を当てつつも難治性炎症性肺疾患を中心に、その新規治療法／創薬を目指して現在も研究を行っております。

細胞内への動員機構を皮切りに、筑波大学基礎医学系薬理学グループの講師に任用後もシグナル解析を主たる研究テーマとして、増殖／分化などの細胞の運命を制御する細胞内リン酸化酵素に研究対象を拡大していきまし。文部省の在外研究員として渡航の機会を得た際も、細胞内蛋白質リン酸化シグナルの研究において世界の第一人者と認められる Dr. Michael Karin (UCSD) カリフォルニア大学サンディエゴ校) の研究室に留学しました。帰国後、程なく1999年の10月に千葉大学医学部の助教に任用されました。木村定雄教授の研究室・分子生体機構学に所属し、2005年の文部科学省の改組と共に研究室名が分子生体制御学となり、職名も准教授となりました。また、2014年には幡野雅彦先生が教授となり研究室名も疾患生命医学に変わりました。

長らく在籍させていただいた千葉大学医学研究院においては、特に呼吸器内科

### 千葉市立青葉病院

院長 六角智之 (昭63)



今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

令和5年(2023年)4月より千葉市立青葉病院の病院長を拝命いたしました。六角智之と申します。この場をお借りして就任のご挨拶をさせていただきます。私は昭和63年(1988年)に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学整形外科に入局し守屋秀繁教授、高橋和久教授のご指導のもと研修させていただきました。平成8年(1996年)に千葉市立病院に赴任し現在に至っております。35年の医師歴のうち研修医時代を含めると30年間を当院に勤務し、実に人生の半分を過ごさせていただきました。旧千葉市立病院は平成15年(2003年)に現在の千葉市立青葉病院に移転しました。青葉病院の開院にあたっては計画段階から参加させていただき、

当時国内ではまだ例の少なかった電子カルテシステムの導入、手術室関係の設備調達に責任者の一人として関わらせていただきました。診療では専門領域である上肢外科・手外科のみならず積極的に整形外科全般に携わり、後進の育成にも出来る限り努めてまいりました。大学病院をはじめ県内の多くの病院で活躍されているすばらしい後進たちと関わってきたことは私の誇りでもあります。当院は開院当初より救急医療、感染症、精神科といった千葉市の政策医療を担ってまいりました。救急医療においては、年間4000台近くの救急車受け入れを行なっており、内科、整形外科において市内2次救急輸送の最も多くの目を担当しております。現在千葉市の救急医療体制は多くの問題を抱えており、特に救急搬送時間は全国でも最悪のレベルと言われています。その対策の一つとして、搬送困難例は当院を含む市内6

### 船橋市立医療センター

院長 茂木健司 (昭63)



令和6年(2024年)4月、これまで7年間にわたり当院の運営を行ってこられた丸山尚嗣前院長(昭57)が、船橋市病院事業管理者に就任されたことに伴い、後任として、院長を拝命いたしました。私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、当時奥井勝二教授が主宰されていた千葉大学医学部第一外科(現臓器制御外科)に入局。1年間の大病院での研修の後、4年間の関連病院での外科研修の中で心臓血管外科のダイナミックな手術や濃厚な術後管理に魅了されました。折しも、中島伸之先生(心

いりました。今後とも引き続き地域の方々に安全、安心、最良の医療を提供していく所存です。のほな同窓会の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。臓血管外科)が第一外科教授に就任されたこともあり、大学に戻ってからは心臓血管外科グループに属し臨床・研究を行いました。平成10年4月、千葉県救急医療センター(現千葉県総合救急災害医療センター)に赴任し、沖本光典先生(昭50)には、心臓血管外科の救急医療の「いろは」や手術手技をご指導いただきました。平成13年4月、船橋市立医療センターに異動し、高原善治先生(昭49、前船橋市病院事業管理者)の指導の下、数多くの心臓血管手術や学会活動を行って参りました。令和3年からは、副院長兼患者支援センター長として、コロナ禍でありましたが、クリニックや病院を訪問し、地域の医療関係者との交流を深め、地域医療連携強化に注力してき

ました。  
 当院は、昭和58年（1983年）に開院し、現在31診療科449床。救命救急センターを併設し、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院に認定されています。病院の立地柄、医師は千葉大学の各医局だけでなく、都内の大学医局からの派遣も得ております。当院の救命救急センターは、船橋市（人口約64万人）を中心に千葉県東葛南部地域医療圏（人口約180万人）の三次救急医療の要として機能しています。病院敷地内に、船橋市消防局の救急ステーションが設置され、船橋市医師会、船橋市消防局と連携した「ドクターカーシステム」があり、救命救急センターに搬送された超急性期疾患（急性心筋梗塞、急性大動脈解離、脳梗塞、多発外傷、薬物中毒等）に対して、24時間365日体制で迅速に対応し良好な救命成績を上げています。

がん診療においては、地域がん診療連携拠点病院として、手術、化学療法、放射線治療と質の高い医療を提供しています。令和5年からは、がんゲノム医療連携病院としての診療も開始しました。また、ロボット

支援手術は、泌尿器科の前立腺癌手術から始まり、消化器外科、産婦人科で導入されています。  
 現在、令和9年（2027年）度開業を目指して新病院建設計画が進んでいます。

す。新病院では、更に地域の皆様が安心して受けていただける高度な医療を提供いたします。今後とも同門の先生方の御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

### JCHO三島総合病院

院長 赤 倉 功 一 郎 (昭59)



令和6年（2024年）4月1日より、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）三島総合病院（静岡県三島市）の院長に就任いたしました。私は、昭和59年（1984年）に千葉大学医学部を卒業した後、千葉大学泌尿器科に入局して島崎淳教授ならびに伊藤晴夫教授に師事しました。大学院修了後は、2年半のカナダバンクーバー留学を経て、前立腺癌および尿路結石症の基礎的臨床的研究に従事してまいりました。2002年よりはJCHO東京新宿メディカルセンターに泌尿器科部長・副院長として勤務しました。このた

びの人事異動は、JCHO理事長である前千葉大学医学部附属病院長山本修一先生をはじめとして、元千葉大学学長徳久剛史先生、千葉大学名誉教授伊藤晴夫先生など、諸先輩のご高配によるものです。あつく御礼申し上げます。

います。山本修「JCHO理事長の指揮による「安心の地域医療を支えるJCHO」というキャッチフレーズが浸透しており、着任後院長業務をスムーズに発進することができました。

当院は、病気を治すことのみならず、高度急性期病院ではありません。高齢化による疾病構造の変容がみられる静岡県東部地域において、地域に根差した形で亜急性期および回復期の医療を担うことが当院の責務と考えています。  
 当院には、一般急性期病棟および地域包括ケア病棟に加えて、健康管理センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設が併設されています。そして、安心の地域医療の実現のためには、近隣の医療機関や施設との連携が欠かせません。さいわい、近隣でご活躍の千葉大学関連の先生方が温かく迎え入れてくださいました。個人的知己が少なくない中、大学同門の有難さを身に染みて感じているところでです。今後とも、ご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 千葉県がんセンター

病院長 加 藤 厚 (平元)



令和6年（2024年）4月1日付けで、藤里正視前病院長の後任として、千葉県がんセンターの病院長を拝命いたしました。  
 私は平成元年（1989年）に千葉大学を卒業し、当時奥井勝二教授が主催されていた千葉大学医学部第一外科教室（現在の臓器制御外科学）に入局しました。千葉労災病院、松戸市立病院（現松戸市立総合医療センター）、大網白里町立国保郡南病院（現大網病院）、国立千葉病院（現国立病院機構千葉医療センター）での研修を経て平成5年に中島伸之教授が主宰されていた教室に戻り、宮崎勝先生が率いる肝胆道研究室（第5研究室）に属して研究を始めました。肝胆道外科の啓蒙期であり、将来性にあふれた臨床・研究分野に大変魅力を感じてのスタートでした。この時の基礎的

な研究マインドは、米國ケンタッキー州ルイビル大学外科（Michael J. Edward 先生、Alex B. Lentsch 先生）での研究留学を含め、私の大きな財産となっています。留学後に宮崎勝教授のもと、助教、講師として肝胆膵領域の臨床・研究・教育に携わって参りました。胆道癌の集学的治療、とりわけ切除不能胆道癌に対する化学療法後のコンバージョン手術など、難治癌の治療に取り組んできました。平成28年（2016年）4月に国際医療福祉大学の医学部開学を機会に、消化器外科の教授職として国際医療福祉大学三田病院に赴任しました。この時も宮崎勝病院長とともに肝胆膵外科学の発展に尽力すると同時に、2020年には三田病院副病院長として医療安全や経営にも取り組んで参りました。2021年4月より千葉県がんセンターに就職し、2023年には副病院長を拝命し、医療安全、働き方改革、病院経営などに取り組み今日に至ります。千葉県がんセンターは昭

和47年（1972年）に200床の先進的ながん専門病院として開院しました。機能性や拡張性にすぐれた建築はレンガ張りの外観とともに全国的にも有名で、東日本大震災も乗り切り、48年の長きにわたりがんセンターの顔となりました。その病棟も老朽化し、増築により分散していた機能を集約するため令和2年（2020年）10月に新病院がオープンしました。病床数450床で手術支援ロボット2台の手術室10室、緩和病床53床を要し、がんのトータルケアを行う体制を整えるなどの先進的な設備と人員の配置を行ってまいります。人口減少時代を迎え、医療を取り巻く環境は厳しくなっていますが、千葉県がんセンターは、都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院であり、千葉県のがん診療の要として、持続可能性のある良質で安全な医療の提供を行う責務があり、病診連携を密に行い、地域で信頼される必要とされる千葉県がんセンターであり続けるために今後も努力して参ります。引き続き同窓会の皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

和47年（1972年）に200床の先進的ながん専門病院として開院しました。機能性や拡張性にすぐれた建築はレンガ張りの外観とともに全国的にも有名で、東日本大震災も乗り切り、48年の長きにわたりがんセンターの顔となりました。その病棟も老朽化し、増築により分散していた機能を集約するため令和2年（2020年）10月に新病院がオープンしました。病床数450床で手術支援ロボット2台の手術室10室、緩和病床53床を要し、がんのトータルケアを行う体制を整えるなどの先進的な設備と人員の配置を行ってまいります。人口減少時代を迎え、医療を取り巻く環境は厳しくなっていますが、千葉県がんセンターは、都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院であり、千葉県のがん診療の要として、持続可能性のある良質で安全な医療の提供を行う責務があり、病診連携を密に行い、地域で信頼される必要とされる千葉県がんセンターであり続けるために今後も努力して参ります。引き続き同窓会の皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

### 千葉県こども病院

病院長 皆川 真規 (平元)



令和6年4月1日から中島弘道前病院長の後任として千葉県こども病院の7代目病院長を拝命しました。

私は平成元(1989)

年3月に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学小児科学教室に入局し、同門諸先輩方のご指導の下、小児科医としてのキャリアを積んでまいりました。千葉大学附属病院、千葉市立病院、君津中央病院、千葉労災病院で小児科臨床技能の研鑽を積みとともに、新美仁男小児科教授、安田敏行先生のご配慮により、平成7(1995)年から2年間カナダのモントリオールにあるMcGill大学で研究留学の経験もさせていただきました。平成13(2001)年からは千葉大学小児科・小児病態学の助手、講師として臨床・教育・研究に従事しました。この頃で大きな出来事は、平成16(2000

4)年4月からの医師臨床研修制度必修化への対応に迫られたことでしょうか。

制度上このあと2年間は医院への新入局者がゼロとなり、平成17(2005)年から河野陽一教授のもと2年間小児科医局長として病院内外の調整にあたりました。振り返ってみると、この頃が今に続く医師不足局面への転換期だったかと思えます。臨床研修必修化にもない、医学部生の臨床実習についても診療参加型実習への転換が求められ、大学の他科の先生方と検討にあたりました。医学以外の様々な経験を経て、平成23(2011)年に千葉県こども病院に赴任いたしました。こども病院では、専門領域としてきた内分分泌科で診療を行う傍ら、管理的な業務も徐々に増えてきました。日本専門医機構が関与した専門研修制度への対応や千葉県病院長のレジデントプログラムに小児科サブスペシャリティ領域の追加などによって若手医師確保を図りました。医師の教育は、これからもこども病

院に課せられた大きな使命の一つです。また、令和元(2019)年にはちば医経塾を履修し、他施設他職種の方々とは病院経営に関する様々なことを学ばせていただきました。

千葉県こども病院は昭和63(1988)年10月の開院以来、36年目を迎えました。この間、医療そのものと医療を取り巻く環境も大きく変化してきていると感じます。こども病院の施設設備も単なる経年劣化のみならず、現在提供している医療、今後担うべき医療に對してのミスマッチ部分が目立つようになってきています。千葉県立病院では、救急医療センター(昭和55(1980)年開院)と精神科医療センター(昭和60(1985)年開院)が、令和5(2023)年に千葉県総合救急災害医療センターとして統合開院しています。千葉県こども病院が千葉県の小児医療の「最後の砦」という役割を果たしていくためには、新たな構想のもと将来を設計していく時期に入っています。

産は、何十年の間に築きあげてきたものです。小児医療に携わるものとしてのスピリットは病院開設時から変わらないものであっても、人に求められるものは時とともに変化していきま

す。高度専門病院として一人一人の職員が頑張る力を発揮していればよい結果に結びついて「分業」の時代はすでに終わっています。最近では医療において「連携」という言葉がよく使われていますが、各人が前後左右を見渡した上で自分の分担領域をさらに向上させていく姿勢が大切になってきています。

日本は少子高齢化社会を迎えています。未来の社会は子どもたちが作り上げていくものです。小児医療の重要性が低くなることはないと思います。現在の子どもたちのために、未来の子どもたちのために、こども病院は必要とされる役割を果たし続けられるよう、すべての職員とともに頑張っていきたいと思えます。

### 君津中央病院

病院長 柳澤 真司 (昭60)



令和6年4月、君津中央病院長を拝命いたしました。柳澤真司と申します。私は、

千葉県に生まれ、千葉大学

入学時に初めて千葉に参りました。昭和60年に千葉大学を卒業後、当時奥井勝二先生が主宰されていた千葉大学第一外科学教室(現臓器制御外科)に入局し、出張の後に更科廣實先生率いる消化管グループに属し、斎藤典夫先生、布村正夫先生の元で主に胃癌の研究に従事しました。その後平成6年4月に君津中央病院外科に赴任致しました。当時から何でも来る野戦病院であり田中寿一先生には本當に鍛えられお世話になりました。以後30年間外科医として勤務しております。途中平成15年より2年半だけ長野県立須坂病院に外科部長として勤務し、既に引退されていましたが故熊谷信夫先生には大変お世話にな

り、またこの間の経験は大変貴重なものでした。前病院長の海保隆先生は8年にわたり病院長を務められ後半はコロナ禍の中の病院運営を担当され大変な苦勞されたことと存じます。この3年間は副院長として病院長の補佐をさせて頂きました。

当院は木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市の4市からなる人口32万人の君津医療圏の中で唯一の総合病院、中核病院です。君津医療圏は医療過疎の千葉県の中でもさらに医療資源が少ない地域ですが、今年度は山武長生夷隅医療圏に次ぐ医師少数区域となりました。この医療資源の少ない中でさらに医師働き方改革が追い打ちをかけています。当院は3次救急病院であり救急患者は最終的には当院に集まります。当院が患者さんにとって最後の砦であるという気概を持って取り組んでおります。当地区の夜間休日救急体制は2次輪番病院で大学からの医師派遣に頼っていたところが、一部病院で大学からの派遣が

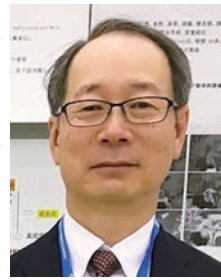
来られなくなり2次輪番が埋まらなくなり当院の一部を担当するという状況が出てきました。また、当地区は回復期病床が少なく、急性期を過ぎて常にも60-80人の転院待ち患者がいる状況です。そのため病床が逼迫することもあります。今後は急性期の中でもそれほど重症でない高齢者の肺炎、心不全等増えてくると言われています。高齢化も進行し、このような状況の中で一つの病院で地域を支えることは所詮不可能です。地域で役割を分担し地域の病院・クリニックの皆様と充分な連携が肝要となつてきます。地域の皆様に信頼される病院を目指して職員一同努力していく所存でございます。引き続き同門の皆様のご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。





### 千葉市病院事業管理者

山本 恭平 (昭57)

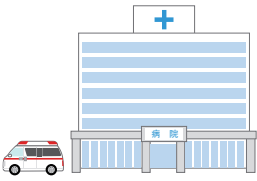


令和5年(2023年)4月1日付けで千葉市病院事業管理者を拝命いたしました。千葉市には2つの市立病院があります。東西に伸びる行政6区からなる98万人の政令市ですが、300床程度の基幹病院が市の中央に集中しており、東西には総合病院が少ないという状況にあります。この背景のなか、青葉病院(2003年開設、369床)は主に市東部、海浜病院(1984年開設、293床)は主に西部の市民の方々に求められる地域医療の提供を目指しております。青葉病院は成人及び児童精神医療、血液内科診療、そして県の災害拠点、県内で数少ない第2種感染症指定病院として機能しております。海浜病院は県の災害拠点、がん診療連携協力病院、地域小児科センター、地域周産期母子医療センターと

して機能しています。初代の病院事業管理者は守屋秀繁先生(整形外科名誉教授)、第二代は齋藤康先生(元千葉大学長)、第三代は寺井勝先生(元女子医科大学八千代医療センター院長、元千葉市立海浜病院院長)が務められ私が第四代目となります。さて私は昭和57年(1982年)に千葉大学を卒業し、故熊谷朗教授が主催されていた旧第二内科に入局し、その後故吉田尚教授のご指導を受けました。医局の基本方針である「socialistである前にはgeneralistであれ」に従い君津中央病院での初期研修を終えりと田村泰先生の下で内分泌代謝学の研究に入りました。その後1989年から1992年まで米国ノースカロライナ大学薬学部に留学し細胞内シグナル伝達の研究にいたしました。帰国後は1年間国吉病院(いすみ医療センター)に勤務してから、1985年に君津中央病院に異動しました。初めての内分泌代謝糖尿病科の常勤医師として他科の入院患者のコン

サルトを行い、患者会(マイライフファミリー)を立ち上げ、のちに内科部長や検査科栄養科の科長も務めました。その後2002年に寺野隆先生(前青葉病院副院長、現大崎医院院長)のお誘いを受け齋藤康教授(当時)に後押しをしていただき、矢作の旧市立病院に異動しました。その後2003年に開院した青葉病院に移り、2006年から内科統括部長兼臨床研修委員長として内科全体の入院患者を管理し研修医の教育に当たりました。そして2015年には齋藤康病院事業管理者の命で院長に就任しました。それまで臨床と教育ばかりで、病院管理、経営の知識はほとんどありませんでした。最初は戸惑いましたが、看護師不足で閉めていた病棟を開け、救急棟を作り、ICU/HCUを整備して、開業医さんを毎年200件近く訪問し、2019年には医業収支と病床稼働率を改善することができました。その後はコロナ対策に追われましたが、ICU/ICNに助けられて大きなクラスターも出さずに乗り切ることができ、感染症指定医療機関としての責務を果たすことができました。

今後千葉市病院事業管



理者として、千葉市の病院行政全体にかかわることになりました。コロナ後は患者の受療行動に変化があり、入院患者数が減少しているように感じており、病院経営もますます厳しくなっていくと思います。海浜病院の老朽化に対応するために幕張新都心若葉地区に新病院を建設中であり、2026年秋の開院を目指しています。引き続き千葉市民に安心安全な医療を届けるように努力する所存です。

の後は千葉市民の皆様には今後ともご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

### 令和6年度 むのはな同窓会 新理事・新幹事 就任挨拶

神奈川 むのはな会 理事 北野 慎一郎 (昭50)



この度、千葉大学医学部 むのはな同窓会の理事を推薦されました。北野慎一郎(75歳)と申します。昭和50年千葉大学医学部卒業後、東京女子医科大学麻酔科教室、東京都葛飾区柴又にて北野医院継承、平成15年

静岡 むのはな会 理事 赤倉 功一郎 (昭59)



神奈川 県鎌倉市七里ガ浜に七里が浜診療所を開院しました。開院後に神奈川県の むのはな会に入会し、現在に至っています。大学卒業後は猪鼻町には余り深い繋がりがなく、神奈川 むのはな会にて先輩・後輩の先生方との繋がりを持つことができ、嬉しく思っています。 今後は、若い卒業生たちをどうやって掴み、 むのはな同窓会を更に盛り上げていけるか頑張ってみたくと楽しみにしています。

令和6年学生幹事 鈴木 孝一郎 (令6) 古川 こと美 (令6)



令和6年3月の卒業生一同を代表して、この度、鈴木孝一郎、古川こと美が千葉大学医学部 むのはな同窓会の新しい幹事に就任いたしましたことをご報告いたします。長年に渡り同窓会の活動を支えてくださった先輩方に感謝するとともに、私たち新しい世代も同窓会に加わり、発展に貢献できるよう全力を尽くす所存です。卒業生同士の絆を一層深め、母校の発展にも寄与できますよう、皆様のご理解と協力を心よりお願い申し上げます。

受章の挨拶

瑞宝中綬章

叙勲の光栄に浴して

寺澤捷年(昭45)



私は令和五年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章致しました。皇居宮殿での拝謁の際には陛下からお声がけも賜り嬉しさもひとしおです。

受章の業績は「漢方医学の継承と発展・和漢診療学の創生」でありまして、この種の業績での叙勲は歴史に上初めてのことです。医学部に和漢診療学講座を持つ国立大学は富山大学と千葉大学の二校であり、この領域の先導的役割を担っています。これらの創設を成し遂げました。

第一内科に学んだ私がなぜこの道を切り拓いたかの概略を記してみます。私は千葉大学医学進学過程に入学と同時に「東洋医学研究会」に入会し、漢方の勉強を始めました。この会は1939年に眼科の伊東彌恵治教授

を顧問教官として設立されたものです。私がこの研究会に入会した1965年当時、医師で漢方の臨床に携わっている方は全国で27人。まさに絶滅危惧種に相当する状況でした。絶滅を阻止したいという、言わば「判官鼻肩」で心に火が付いたように思います。叔父の小倉重成(昭17)がこの研究会の講師で、私の漢方の師匠ですが、当時、眼科医で漢方の臨床に携わっておりまし

た。「東洋医学研究会」における系統講義と夏季休暇などには叔父宅で臨床実習に精を出しましたので、医学部卒業の頃にはそれなりの漢方の腕前を獲得しておりました。

そして、1970(昭和45)年、医学部卒業となつたわけですが、当時の「非入局運動」に賛同し、川崎製鉄千葉病院で内科研修をさせて頂きました。その時の恩師が佐藤重明先生(昭35)です。そして翌年の四月に奥田邦雄内科に入局し

ました。その翌年(卒業3年目)の春に新入医局員全員が関連病院への出向となりましたが、私は東京学芸大学山岳部のヒマラヤ遠征隊の医師として7・8月にアフガニスタンに行く先約があったので、教授にお願

いして9月から熊谷総合病院に出向しました。翌年の春に帰局し、神経内科を志し渡辺誠介先生(昭27)の主宰する「筋電図室」に所属しました。川口新一郎(昭30)、和泉(丸山)佳子(昭43)、栃木捷一郎(北大・昭44)諸先生のご指導を受けました。志村昭光先生(昭30)、永井順先生(昭34)、松下嘉一先生(昭36)、七辺一三先生(昭38)はこの研究室のOBで、富山に赴任後も医局員の内科研修などで大変にお世話になりました。

ところで、人生は計算通りには参りません。1974年に渡辺誠介先生に同行してロンドンの国立神経病院で数か月間の勉強をしましたが、世界各国から集まる神経内科学の優秀たちは脳の中を見てきたような解剖学の知識を持っていたのです。そこで、帰国後に本学の解剖学教室(大谷克己教授)で本格的に中枢神経の解剖学を学ぶことにしま

した。その年に開始された神経内科専門試験にも合格しました(第3号です)。ところが、大学院在学中に本学に神経内科学講座が新設され、その教授選考に渡辺誠介先生が破れてしまったのです。1979年に大学院を修了し博士号の学位を頂き、4月に平山恵造教授の主宰する神経内科学教室に入局しましたが、何と、その7月に新設の富山医科薬科大学から和漢診療室を

作るということで招聘を受けたのです。この大学の建学の理念が「東西医学の融合統一」であつたので、わたくしの所期の目標を実現するために富山に赴任した次第です。

歴史に「もしも」はありませんが、渡辺誠介先生が教授になつておられたら富山医科薬科大学に赴任することはできなかつたと思

いますし、叙勲とも縁のない人生を歩んだと考えます。ともかく漢方という科学とは別のパラダイムに取り組みるので、科学至上主義の教授会メンバーと渡り合うのは大変でした。この困難を乗り越えられたのは「建学の理念」と神経内科の専門医であつたこと、そしてBrain Research誌に投稿した眼球運動に関する博士論

文の質が高かつたことでした。還元主義を唯一の拠り所とする教授会の尺度で測ることの出来る資格と経歴によつて、ようやく選考に合格したという次第です。

34歳で富山医科薬科大学に赴任したわけですが、学内では常に怪しい(理解不能の)存在であつたので、漢方治療にこだわらずに、院内からの神経内科的なコンサルトには丁寧に応じ、学

生向けの神経内科学の講義も担当しました。この大学には付置研究所として「和漢薬研究所」がありまして、大いに助けて頂き、2002年には文部科学省の21世紀COEプログラムに「東洋の知に立脚した個の医療の創生」で応募し、採択され、その拠点リーダーを務めることが出来ました。この間、医学部長、病院長を歴任。この勢いに乗つて「学長選挙」に立候補しましたが、一次選挙で圧勝したものの、教授会による本選挙で惜敗。大学を辞職する事態に至りました。ところが、この状況を知つた当時の千葉大学長・磯野可一先生から、千葉大学に戻つて和漢診療学講座を担当するようにとのお招きがありまして。まさに地獄で仏に出会うとはこのことで

す。

母校からの招聘が無く民間病院の勤務医になつていたら、今回の叙勲の話は無かつたと思います。本当に人生は計算通りには行きません。60歳にして千葉大学に戻して頂いた後は漢方の本質的な思想研究にも取り掛かり、岩波書店から「吉益東洞の研究」を出版。この業績が評価され日本大学

から博士(文学)の学位を授与されました。現在は千葉中央メディアカルセンターにお世話になっていますが、「漢方を交えたあらたな医療論」(医学書院)を執筆中です。東洋哲学をも組み入れた新たな日本型医療システムを提案します。秋までに出版できるよう、初稿に加筆訂正を行っているところです。

から博士(文学)の学位を授与されました。現在は千葉中央メディアカルセンターにお世話になっていますが、「漢方を交えたあらたな医療論」(医学書院)を執筆中です。東洋哲学をも組み入れた新たな日本型医療システムを提案します。秋までに出版できるよう、初稿に加筆訂正を行っているところです。

旭日双光章 叙勲を拝受して

小池清二(日本歯大・昭39)



昭和39年歯科大学を卒業し、歯科医師国家試験合格後、第一外科勤務の義兄の内田威郎医師の紹介で、佐藤吉吉教授の歯科口腔外科教室に入局させて頂きました。入局時、佐藤教授から、医局には多くの大学からの研究生が在籍しているので仲良く医局生活を過ごして下さい。それと、自分の将来を学者になるか、開業医になるかを定め、毎日を過ごして下さいと訓示を頂き

ました。佐藤研一先生と同時に入局しました。研一先生はやがて教授になられる方ですし、私は開業医を目指し入局いたしました。

医局の先輩の指導の下、外来診療や口腔外科小手術等を見学、助手などをしながら臨床を積んでいきました。週一回は佐藤教授の口腔がん等の大きな手術を見学し、全身麻酔、人口呼吸器管理の安全な手術に感激を抱きました。

2年後医局の指令で某開業歯科医院にアルバイトに行くこととなり、診療所の清掃、機器の消毒、滅菌患者の取り扱い方など、開業歯科医院の経営学を少し

ました。佐藤研一先生と同時に入局しました。研一先生はやがて教授になられる方ですし、私は開業医を目指し入局いたしました。

勉強することが出来ました。

4年後、父が脳梗塞で倒れ、母親の勧めで市原市姉崎の実家の隣に小池歯科医院を開業しました。折しも臨海工業地帯が市原市まで伸延し、人口の急増で虫歯も増え、毎日9時頃まで診療し、忙しい生活振りでした。人口増で市内の小中学校が毎年1校新設され、会員全員が学校歯科医に就任し、一時は4校を受け持つ事態となりました。

開業と同時に市原市歯科医師会に入会し、数年後理事に就任、専務理事4年、副会長6年、会長2年を経験し、翌年千葉県歯科医師会学校歯科部会理事を5年勤め、千葉県学校歯科保健大会、関東地区学校歯科保健大会、全国学校歯科保健大会等に参加し、児童生徒の学校での取組等を広く研究して参りました。現在は小・中学校2校の学校歯科医に就任しています。

この度の旭日双光章の叙勲に対し、歯科医師としての研修に当たっては、同門会の入翠会やなのはな同窓会の皆様方の心厚きご指導とご鞭撻の賜物と衷心より感謝し、御礼申し上げます。今後ともこの榮譽に恥じぬよう一層の精励致す所存でございますので、変わらぬご

芳情を賜りますようお願い申し上げます。

紫綬褒章

紫綬褒章受章に際して

大野 博 司 (昭58)



この度、令和5年秋の叙勲・褒章において、紫綬褒章受章という榮譽に浴しました。私は昭和58年に本学卒業後、麻酔科に入局しましたが、医学部進学前から基礎医学に興味があり、昭和62年に本学大学院医学研究科に入学し、谷口克先生、齊藤隆先生の元で免疫学の手ほどきを受けました。平成3年に博士課程修了後は齊藤隆先生の教室で助手を務めた後、休職制度により平成6年から3年間米国Zhejiangに留学させて頂き、細胞生物学(細胞内小胞輸送)の研究に従事しました。復職後、齊藤研究室の助教を経て、平成11年に金沢大学がん研究所に教授として赴任し、研究室を主宰させて頂くことになり、免疫学と細胞内輸送の研究を組み合わせた研究対象として、

腸内細菌を取り込んで腸管免疫系に受け渡す細胞内輸送の発達した特殊な腸管上皮細胞サブセットであるM細胞の研究をメインテーマに定め、今回の受賞に繋がる腸管免疫学の研究を開始しました。さらに平成16年に現在も在籍する理化学研究所に移るとともに、腸内細菌叢が宿主に及ぼす影響の重要性に着目し、腸内細菌を宿主が認識するメカニズムであるM細胞研究に加え、腸内細菌が宿主の免疫系や疾患に及ぼす影響の分子メカニズムの研究も開始しました。M細胞は電子顕微鏡による形態学研究から1970年代初頭に発見されましたがそれ以降も長らく形態学が主流であり、細胞特異的マーカー分子も未同定でした。私どもは、M細胞特異的に発現する遺伝子群を同定することで、これまで全く不明であったM細胞の機能や分化に関する分子メカニズムを明らかにしてきました。

また、腸内細菌叢が宿主の生体防御や免疫系に与える影響については、無菌マウスや腸内細菌叢の異なる階層の網羅的解析を組み合わせた統合オミクス解析手法をすることで、腸内細菌の主要な代謝物である酢酸や酪酸が腸管免疫系や生体防御に果たす役割を明らかにすると共に、肥満や2型糖尿病などの代謝疾患、自己免疫疾患である1型糖尿病や多発性硬化症、さらには本学小児病態学の下条直樹名誉教授との共同研究により小児アレルギーの発症やその抑制に働く腸内細菌やその代謝物を明らかにしてきました。このような研究をご評価いただき今回の褒章に繋がったものと、これまで私と共に研究を進めてくれた研究室の現在並びに過去の在籍者の皆様、多くの共同研究者の先生方、さらにはこれまでご指導いただいた先生方に感謝致します。幸いあと5年ほど現職を続けられる予定であり、今後とも微力ながら医学の発展と社会貢献に寄与できるよう尽力する所存ですので、ご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日本医師会赤ひげ大賞を受賞して

清水 三 郎 (日本医大・昭42)



開業以来、産婦人科を中心に、地域医療に向き合っていました。夜はお産だけではなく、医者がいつでもいるからと言って救急車が夜中でも来院することが多く、救急外来と産科の2本立ての生活でした。そんなこともあってか、開業2年目から救急・災害医療検討委員会の委員になりました。委員長になった2006年、二次待機病院の崩壊、1か月に14日も空白ができたのです。住民はもとより救急車の他の地域へ患者輸送など困ったことが毎日のようにありました。2008年7月救急医療体制を整備すべく、行政の長生郡市広域市町村圏組合に設置された、長生郡市救急医療体制検討委員会に医師会代表として参加し論議しました。その間に医療フォーラムの開催や、住民たちと対話をしてきました。会議は喧々譁々、3年度にはやっつことと侃々諤々となつて幕引きとなり、こうして破綻に瀕していた夜間救急医療体制の維持再生に、向かうことができました。これが一安心かと思つたら、一次救急の夜急診に救急車が集まる結果に。内容はというと、赤ちゃんがミルクを飲んだ後に、げっぷが出ないとか、

蚊に刺されて、かゆくて泣きじゃくる子供が救急車で運ばれてくる、などほんの一例で挙げればきりがありません。呼ばれば駆け付けられないといけない救急車の対応は大変です。これでは助かる命も助けられない、と考え救急車の適正利用をまず前面に出して、当地域の小児救急の医療体制の現状と、夜間に子供の具合が悪くなった時の対処方法などについて、まずこれをやるうと、いうことで発起人になり、講師となり、長生郡市広域市町村圏組合と医師会が連携した共同事業として、小学校入学前の保護者を対象に、子供の救急講習会を開始しました。翌年には14の小学校、私に賛同の医師を新たにに加え、720名の保護者が受講しました。現在、この講習会の成果として、夜間の一次救急を担う夜間急病診療所について、講習会の始まった2009年には4106人の受診者数、2022年には721人と減ってきています。夜間救急の医療体制には限界があります。小児を中心とした、夜間救急医療体制を維持するために、この子供の救急講習会を開き、適正受診の必要性を住民に理解していただくことで軽症の

清水三郎 略歴

1939年千葉県一宮町に生まれる。14歳上の兄(文雄)は千葉大学医学部卒の産婦人科医であった。私の進路に兄の産婦人科への一押しがあったことは確かである。1967年日本医科大学卒業後千葉大学医学部附属病院産婦人科医として勤務。千葉県立東金病院産婦人科、千葉県がんセンター婦人科を経て1981年茂原市に清水三郎医院を開業。茂原市長生郡医師会に所属。保育所・幼稚園の園医、小学校・中学校の校医、夜間急病診療所出勤医を20年以上務める。2010年千葉県医療功労者知事表彰。2019年千葉県医療功労賞。2019年度救急医療功労者の厚生労働大臣表彰。2022年千葉県医師会表彰。2024年日本医師会赤ひげ大賞受賞。

患者を減少させ、夜間救急医療体制の崩壊を防ぎたいと考えています。こんな事が評価を受けたものと思

退任挨拶

千葉大学を定年退職するにあたって

千葉大学大学院医学研究院 精神医学 伊 豫 雅 臣 (昭59)



令和6年3月末で定年退職となりましたので、ご挨拶させていただきます。私は昭和59年3月に千葉大学医学部を卒業し、附属病院精神神経科で研修医として昭和61年9月まで在籍して

ます。今後もしっかりと子供の救急出前講習会を続けてゆきます。

理解して下さるようになり、感謝しております。近年、私たちを取り囲む様々なことが大きく、しかも急激に変化してきており

充実した47年間

千葉大学 予防医学センター 近藤 克 則 (昭58)



気づけば千葉大学に入学生してから47年だから、ほぼ半世紀である。千葉大学には、最初の6年間で医師に

くの分野で精神保健の重要性が認識されてきています。が、精神疾患に対する理解

研究には、耐える日々はつきものだが、基調は明るい気分(☺)であった。ライフテーマとなる社会疫学に

退任挨拶

千葉大学大学院看護学研究院 健康増進看護学 小宮山 政 敏 (東農大・昭57)



平成2年3月に解剖学第一講座助手に着任して以来、あつという間の34年でした。その前の委託研究生時代を

の人に感謝します。名も環境生命医学となり、DNAマイクロアレイ等の新しい手法を用いて環境中の化学物質による生体影響を調べる研究に着手しました。

鈴木崇根先生がクリニカル・アナトミー・ラボの設立に着手することとなり、鈴木先生と共に外科系の先生方へ協力をお願いする行脚を行いました。平成25年に看護学部教授に着任した後も兼担講師として医学部解剖実習に参加し、肉眼解剖の研究も継続させていただき

退職のご挨拶

千葉大学大学院医学研究科 診断推論学  
医学部附属病院 総合診療科  
生坂 政 臣 (鳥取大・昭60)



地方大学卒業生で千葉には縁もゆかりもない一介の開業医を教授選で推挙下さり、お陰様で悔いのない21年間を、ここ亥鼻の地で過ごすことができました。医療の細分化に伴って、これらの狭間に陥る患者や疾患も増加するため、高度に先鋭化した医療機関にこそ総合診療は必要なのですが、三次医療機関でのプライマリ・ケア展開は、特に経営面で数々の困難があります。その難局を乗り越え

ました。また、環境生命医学の先生方には看護学部生の卒業研究にも協力していただきました。  
このように、私は多くの先生方に支えられ、充実した教員人生を送ることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

戦略のひとつとして自費診療で挑戦した、国内初の臓器横断的診断セカンドオピニオン外来には、原因不明の症状に苦しむ患者が全国から紹介されるようになり、経営面でも当科の赤字削減に幾ばくかの効果がありました。同様に教室運営資金獲得と、わが国のプライマリ・ケア底上げのために、研修登録医制度を利用した生涯教育にも注力し、臓器専門医のプライマリ・ケア医転身を支援する当教室のリカレント教育プログラムで研修した全国の開業医・勤務医は、20年間で延べ314名に及んでいます。また、当教室から他大学総合診療部門に3名の主任教授

退職のご挨拶

千葉大学大学院医学研究科 臨床腫瘍学  
腫瘍内科・臨床腫瘍部  
滝口 裕 一 (昭58)



2024年3月末をもって定年退職となりました。これまで長い間なんとか無事に過ごせたのも皆様から多大なご指導・ご支援をいただいたお陰と感謝申し上げます。1983年に千葉大学を卒業し呼吸器内科に入局しました。ジュニア出張の浜松医療センターでは、呼吸器内科同門の諸先輩のご指導をいただきました。多くの臨床経験はもちろん、学会報告や論文発表を自由にさせていただき、私の研究への情熱をかき立てていただきました。大学に帰局してからは肺がん臨床試験グループを通じての研究参加の機会をいただき、私の腫瘍学への第一歩となりました。さらに放射線医学総合研究所(現・量子科学技

本庄市で地域医療に従事する予定です。皆様からの長きに渡るご支援、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

ばこれが腫瘍内科に進む契機でした。米国留学を経て1995年に呼吸器内科に戻り、多くの大学院生と実験や臨床研究を行うことができたのは大変楽しい思い出です。2007年には千葉大学附属病院に臨床腫瘍部をつくっていただき、これが現在の腫瘍内科・臨床腫瘍部・臨床腫瘍学講座につながっています。また15年以上にもわたって「がんプロ」を担当させていただいたことは、学内外の多職種の先生方との豊かな人的交流につながりました。新たな診療部門創設に当たっては呼吸器内科の強力なバックアップと血液内科など多くの診療科のご協力、2017年からは消化器内科の全面的なバックアップをいただき、腫瘍内科診療や多くの臨床試験、学部学生・大学院生の教育を行うことができました。それ以外にも沢山の方々や診療科のご指導・ご支援をいただきました。こうしてみると私のキャリアのほとんどが多くの皆様からのご支援の賜物です。本当にありがとうございます。最後になりましたが、皆様からのご支援の賜物です。本当にありがとうございます。最後になりましたが、皆様からのご支援の賜物です。本当にありがとうございます。最後になりましたが、皆様からのご支援の賜物です。本当にありがとうございます。

令和6年度千葉大学医学部  
ホームカミングデー  
(卒後四半世紀・半世紀卒業生の集い)  
開催のお知らせ

開催日：令和6年11月17日(日)

ご案内学年：昭和49年卒業生(卒後50年)

平成11年卒業生(卒後25年)

母校においてホームカミングデーを上記日程で開催します。

卒後50年(昭和49年卒)、25年(平成11年卒)の会員皆様にご来校頂、これまでのご活躍への感謝の念をお伝えし、感謝状・激励状および記念品を贈呈いたしたいと存じます。

万障お繰り合わせの上、ご参集いただけましたら幸いです。

# 各地のほな会 だより

## 東京のほな会

### 令和6年新年会開催報告

令和6年東京のほな会新年会が1月20日(土)銀座アスターお茶の水賓館で開催され、過去最多の101名が参加する盛況となりました。

冒頭で就任3年目の岡本和久会長(平2)が「この形で開催できるようになって本当にうれしいです。今後もしも若手が何でも相談できるような相談所のような東京のほな会を目指します」と挨拶。

理事会では吉原俊雄のほな同窓会会長(昭53)の同窓会報告などの後、1月にJCHO三島総合病院へ異動された赤倉功一郎参与(昭59)がご挨拶をしてくださりました。

特別講演は昨年4月に国立循環器病研究センターの心血管老化制御部部長、心不全・移植部門特任部長に就任された清水逸平先生(平14)が「心血管疾患治療法開発に向けた挑戦」と題してご講演戴きました。

シヨートスピーチでは千葉大学大学院医学研究院脳

神経科学教授、樋口佳則先生(平4)、国立健康・栄養研究所栄養疫学・食育研究部、栄養ガイドライン研究室室長、片桐諒子先生(平20)がお話くださいました。

奥村康先生(昭44)の開会の辞で始まった懇親会は、徳久剛史元学長(昭48)、

10人の千葉大学教授のご挨拶や井口はるひ先生(平16)小西孝明先生(平25)の姉弟コンビによる乾杯、亥鼻祭実行委員会の報告などで盛り上がりました。

新年会としては久しぶりの立食式で、会場にはたくさんさんの輪ができて旧交を温める姿が目立ち、久しぶり



に同窓会らしい同窓会を築きましたとの声があふれました。

三澤潤子先生(平11)の閉会の辞で散会となりました。

総会は7月6日(土)銀座アスターお茶の水賓館で開催予定です。

奮ってご参加、宜しくお願い致します。(岡本和久)

## 栃木のほな会

### 令和6年

栃木県のほな会総会令和6年栃木県のほな会総会が、1月28日(日)にJR宇都宮駅前のチサンホテル宇都宮にて開催されました。

コロナ禍でのオンライン開催、Hybrid開催から、今回は4年ぶりの完全現地開催となりましたが、初参加10名以上を含め33名の同窓にご参加いただきコロナ前に匹敵する盛会となりました。14時からの総会では、安藤克彦副会長(群馬大・昭60)の司会のもと、ご逝去された先生へ一同で黙祷を捧げた後に、森本直樹会長(平3)から対面で開催できる喜びとともに、若い人たちにとっても楽しい会



にしていきたいと挨拶がありました。会計報告、監査報告につづいて、来賓としてお越しいただいた吉原俊雄千葉大学のほな同窓会会長(昭53)から同窓会報告として創立150周年記念メモリアル事業のほか、宇都宮記念病院内の中山恒明記念館ご来訪時の様子などご講演をいただきました。

総会終了後には、本学より松原久裕先端応用外科教授(昭59)をお迎えして「食道癌の最新治療戦略」について詳しくご講演をいただきました。日本と欧米との術前治療の違いや、進行癌治療や術後補助療法としての免疫チェックポイント阻害剤の上乗せ効果、さらには重粒子線治療を組み

合わせた千葉大ならではの先進治療などについて大変解りやすくお話しいただきました。母校のプレゼンスの高さを実感し大変嬉しく誇らしく感じたとの声を参加した多くの先生方から聞きました。

その後、石塚満理事(平11)の挨拶、写真右から  
前列：福田健(昭48)、本多陸人(昭42)、十川康弘(昭55)、松原久裕(昭59)、吉原俊雄(昭53)、森本直樹(平3)、大井利夫(昭35)、村野俊一(昭50)、小林進(昭54)、照井エリナ(平9)後列：志田明音(令3)、安藤樹史(令2)、北林宏之(平12)、瀬尾雄樹(平18)、須田啓一(昭52)、廣瀬雅紀(平28)、三橋暁(弘前大・平2)、河原井麗正(平29)院博士、一瀬雅典(昭62)、戸邊豊総(旭川医大・平元)、照井慶太(平10)、川平洋(平4)、行澤斉悟(平9)、善当将也(札幌医大・平29)、神作憲司(平7)、池田啓(平9)、田中慧樹(札幌医大・平31)、石塚満(平3)、宍戸忠幸(山梨医大・平8)、玉地智英(島根大・平22)、吉住博明(平11)、安藤克彦(群馬大・昭60) 桢内・齊藤弘司(昭43)

3)による軽快な司会進行のもと、るのほな同窓会参加者とお務めの大井利夫先生(昭35)のご挨拶と乾杯のご発声が始まった立食形式での懇親会では、久しぶりの再会に旧交を温め、また新しく仲間に加わった方たちとの親交を深めるたくさんの輪ができて、大変賑やかな会となりました。お一人ずつ近況をお話しいたいただき、あつという間に時間が経過、最後に須田啓一先生(昭52)のご挨拶と中締めにて、皆で再会を約束しての散会となりました。

(森本直樹)

多摩ののはな会

第46回多摩ののはな会

新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、日常生活が徐々に戻ってきた令和5年12月9日、4年ぶりに国分寺市の居酒屋「北海道」にて第46回多摩ののはな会が開催されました。

昭和36年卒の鈴木光先生から、多摩総合医療センター初期研修医の深谷拓生先生まで、ベテラン、中堅、若手14名が参加しました。

宴会に先立って、多摩北部医療センター小児科の小保内俊雅先生の「学校児童

生徒の不登校と睡眠障害」と題した講演が行われ、視床下部からセロトニンが分泌され、さらに朝食を食べることでインシュリンが分泌され、体細胞が賦活され、15、6時間後に松果体からメラトニンが分泌され、眠くなつて寝るといふ生活のサイクルを、睡眠障害との関連から症例を挙げて分かりやすく話されました。

次に、山本弘先生の開会の挨拶、乾杯の音頭で宴会が始まりました。北海道産の食材の鍋料理などを食べながら、世代を越えて各自交流を深めました。



定年後に多摩総合医療センターや多摩北部医療センターの上司として、非常勤で勤められているドクターも居て、若手ドクターの励みになったのではないかと思います。

賑やかな宴も8時には終了時間となり、鈴木先生の閉会の挨拶の後、藤田明先生の一本締めで閉会となりました。

写真右から  
前列：上田源次郎(昭53) 滝川弘志(昭43) 山本弘(昭39) 石川てる代(昭53) 中列：松本潤(昭57) 藤田

近畿ののはな会

大阪駅のある梅田界隈はコロナ禍や再開発の影響でしょうか、商業施設の閉店や改装が目立ちます。そのため、今年は何年とは会場を変えて、5月19日(日)13:00から大阪聘珍楼で近畿ののはな同窓会を開催致しました。

緊急手術や健康上の事情などで4名の方が欠席となり、参加者は11名でした。会長代行を務めて下さった最年長の宇佐美暢久先生の開会挨拶の後に、昨年逝去された林良輔先生(昭和50年卒)のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

その後、食事と歓談に一時ついたところで、参加者による近況報告に移りました。

宇佐美暢久先生、玉置哲也先生、那須武先生といった年配の先生がたは、アミロイドロシスの話や久しぶりに訪ねた医学部キャンパスの様子、そして学生運動の影響で医師国家試験をボイコットしたことや人生希望寮での生活など青春の思い出を語っておられました。総じて体力に応じた無理のない勤務をされておられますが、「患者さんの診察は、延いては自分自身のためでもありません」「できる限り臨床を続けたい。臨床を止めると寂しいものです」といった言葉が印象に残りました。

また、増村道雄先生はクリニックでの診療で、分かりやすい病状説明とプライバシーの尊重そして心のケアを疎かにしない医療を実践しておられ、その真摯な姿に感銘を受けました。中尾は、医療過誤を未然に防ぐことのできる医師を育てるために、初期臨床研修医にインシデントレポートを数多く提出してもらおう工夫について話しました。

明(昭55) 深谷拓生(令4) 白根正一郎(平24) 高橋誠(平20) 後列：小保内俊雅(平3) 土田大介(平8) 高森幹雄(平7) 高西喜重郎(昭61) 挨拶：鈴木光(昭36)

評価者講習会を受講せざるを得なくなり欠席されました。

その後、食事と歓談に一時ついたところで、参加者による近況報告に移りました。

写真右から  
前列：中尾照逸(昭50)、玉置哲也(昭38)、宇佐美暢久(昭31)、那須武(昭41)、増村道雄(昭50) 後列：高田「塩見」真理子(平13)、朝長毅(昭59)、伊豆敦子(昭59)、島正之(昭59)、中谷「原田」麗子(平13)、坂本「工藤」陽子(平14)

(敬称略)

次いで玉置哲也先生による発声で、昨年4月に近畿大学救急医学教室主任教授になられた篠崎広一郎先生



教授就任祝いのお花と篠崎広一郎先生



ライブバランスを探り、趣味を楽しんでおられる様子でした。

今回は、篠崎先生と卒業年度が近い高田(塩見)真理子先生、中谷(原田)麗子先生、坂本(工藤)陽子先生といった女性の先生方が、誘い合って新たに参加して下さりました。

3人とも学生時代にスキー部で体力を鍛えただけに、仕事と家庭を見事に両立させてキャリアアップを図っておられ、そのバイタリティーに大変驚かされました。

記念撮影を済ませ、増村道雄先生の閉会の挨拶の後、別れを惜しみつつ散会しました。

最後に今回の近畿のほな同窓会を開催するにあたり、のほな同窓会本部より助成して頂きましたことを感謝申し上げます。  
(文責:中尾照逸)

# クラス会

## 三五会 (昭35)

令和6年の三五会は3月10日十二時半より例年同様、東京ステーションホテル・アトリウムにて開催された。



出席者は昨年より1人少なくなり13名。新型コロナウイルス流行もようやく落ち着いてきたためかマスクを着用してない方が半数以上。開会宣言に続いて昨年暮れに御逝去された藤村眞示君(千葉大学名誉教授)を悼み黙祷を捧げる。ついで海保允君、成田静子君の叙勲(いづれも瑞宝双光章)、神田敬君の第28回のほな同窓会賞の受与をお祝いし、喜びを共に分かちあった。三橋稔幹事代表の挨拶、大井利夫

君による乾杯のご発声の後、ワインと食事を楽しみながら各自の近況報告を行う。半数以上がなんらかの医療活動に貢献しているが、そろそろ医業から離れ、悠々自適の生活をしている方もおり、それぞれ、快適な老後を送っているようである。88名の同級生の中、現在の連絡のつく方は34名、13名の出席者を含め、28名の方からご返事を頂いた。毎回同じような顔ぶれが集まるので、今回は参加できなかった

た方の近況をいくつか転載する。  
三橋先生ほんとうに毎回ありがとうございます。元気がですが学会で形ばかりの病院勤めをしております。行きたいんですが、在阪の数名で行っている「近畿のほな会」があり、失礼します。(大阪 清島啓次郎)  
お世話になっていきます。ご設営ご苦勞様です。体調不良で欠席いたします。2月中旬コロナにかかりました。あまりひどくはならなかったが、ウイルスが消えるのに10日かかり、診療完了引退としました。皆様ますますのご健康をお祈りします。(前橋 中田益光) Still alive! But not well enough to attend the annual luncheon meeting to share an excellent time with you. Hope you Live long! God bless all of you! (千葉 佐藤甫夫)  
我々のクラスも全員米寿を越え人生の晩年を迎えているが、それぞれ頑張っているを楽しみながら暮らしているようである。次回の三五会は令和7年3月9日(日)正午より、同じ会場を予約してあるので、今回ご出席できなかった方もぜひ予定に入れて気軽にお出で頂きたい。

写真右から  
前列:海保允、三橋稔、神田敬、佐伯陳哉、河野宏、貞永嘉久  
後列:永田一郎、三好ひそか、成田静子、増田義昭、大井利夫、村田三範、高橋徹  
(増田義昭)

## さんろく会 (昭36)

昭和36年卒業生クラス会はコロナ後、昨年から復活し今年10月15日恒例の上野精養軒で開催しました。参加者は11名にご家族の3名でした。昨年の参加者も9名で、コロナ前の3回が30名前後の参加でしたから激減です。最近三年間の物故者が14名で、しかも常任幹事長だった青木謹さんはじめほとんどが出席常連者大きい痛手になりました。今回一時通知では17名の参加予定でしたが、最終的には、ご本人やご家族の体調不良で6名の方が取止めにになりました。突発的な体調不良も加齢の為でしょう。来年の再チャレンジを願っています。  
会は恒例に従い集合写真のあと、この1年間に亡くなられた谷口滋君、加藤昌義君、松山輝夫君、加藤喜



一君、福井進君のご冥福を祈って黙祷を捧げました。食事半場からスピーチに移りました。各自の近況報告は不参加の方を含め事前に2回募集し、そのたび紙にして配布しておりましたが、顔を合わせて話題をやり取りするスピーチは笑い声を交えて楽しい時間でした。  
今後の運営に関しては従来の地区別グループ幹事会から簡素化して、個人お一人にお願いすることになりました。次回は鈴木光さん

に再登場をお願いしました。よろしく願います。  
写真は松本さんに腕を振るっていただきました。  
(黒田健昭)

写真右から  
前列:副島訓子、谷合明、三宅伊豫子、野尻雅美、松本生、藤塚立夫、長谷川修司  
後列:谷合ご息女、鈴木光、黒田健昭、谷合夫人、野本一夫、横山健郎、藤塚ご息女



### るのほな37クラス会 (昭37)

令和元年暮れに、中国武漢から端を発した新型コロナ感染症が瞬く間に全世界に拡まり、我が国でも非常事態宣言が発せられ、経済文化活動が抑制された。令和5年になって漸く第8波も終息し感染第2類から第5類となり、各規制が緩和された。

るのほな37会も、令和元年6月29日以来4年振りに開催することになった。令和5年10月29日秋晴れの暖かい日、ステーションコンファレンス東京606号室で18名の参加で開催した。前回は27名の参加だったので9名の減少である。

幹事の岩倉の司会で進行、前回クラス会以降亡くなった故高井満君、故柳沢健一郎君、故松江寛人君、故米澤照夫君、故杉岡昌明君、故小林總介君、故山根友二郎君、故藤森宗徳君、故矢野靖子さん9名を含む36名の物故会員へ黙祷を捧げて故人を偲び、次いで久し振りの再会を喜び杯を挙げた。話題提供として、我々が受験した昭和38年の第34回医師国家試験の問題と入学当時の集合写真を配布した。20歳前後の若々しい顔を見

ると名前と顔がまったく一致しない。

安達恵美子さんが、眼科の教授選に立候補した時の推薦状を石山君が保管しており、それを安達さんに贈った。安達さんは1年以上の先輩に勝って、日本で最初の国立大学臨床の女性教授として話題になった。しばらく飲食後、恒例の近況報告と近頃思っていることを各自述べた。

安達さんは週1回位診察し、毎日数時間ユーチューブを楽しんでいる。井坂君は今年2月に大腸ガン第3期で大腸下部20cm切除、術後判定で第2期になった。転移もなくお酒も飲め、何でも食べられる。6月北野天満宮に参拝、おみくじは大吉だった。石山君は相変わらず児童相談所の相談医を続け子どもの教育の大切さを強調した。伊東君は隣ガン術後8年6カ月経過。Ct値が160で抗がん剤内服と点滴を2週間に1度。そのため貧血、坂道や階段、長い歩行で息切れ、脚の脱力感あり。しかし毎日ビール大びん、ワイン、清酒を楽しんでいる。術後10年は生き延びたい。入枝君は、兄の入枝顕(昭29年卒)が若くして凶刃に斃れたので本学に入学、硬式野球部

に入部した。今は自適の生活。大野君はコロナの影響もあり、引き籠り、読書に専念している。時々体のアチコチの疼痛に悩まされている。小野君は趣味の囲碁で週3回位棋会をやり、同じマンションにゴルフ仲間がいて時々名門コースでゴルフを楽しんでいる。何事もチャレンジすることが大切で、コースに出なくても練習場で練習するのが楽しい。瀬川君は記憶力が怪しくなったので、石山君に介助して貰って参会した。発声も弱々しい感じ。土井君は、左足親指の巻き爪と夜間頻尿に悩まされている。中村君は隠居状態で時間をゆつくり十分に使っている。伯野君は毎日診療している。足腰を鍛えることが肝心。父親は109歳まで生きたが晩年まで一万歩歩いてきた。自分もゴルフはカートに乗らない。毎日100回のスクワットをやっている。日浦君は週一回位病院に行っている。肺ガンと腎ガンの手術をしたが縫合不全で尿が漏れ再手術をしたと元気な声で話した。森君は山岳部の〇〇の矢野さんを見舞った。やや弱っている様子だったが話はできた。耳鼻科の診察はやっているが息子の代診が増えてきてい

る。体力は次第にフレイル。娘二人を若くして失い、5月に愛妻を十二指腸乳頭部のガンで亡くした。仕事より家事が大変で女房の有難さが分った。油井(真)さんは変わりなく元気。クラスで美声を張り上げている。

山本君は85歳になった。まだ現役で三愛記念病院に勤めている。一番若く万年青年の様です。吉川君は、一番速く静岡から参加した。趣味は写真で、写真の会に入り時々撮影旅行に行く。コンクールで入賞したこと度も度々ある。綿引君は週半ば一般内科を、大半は新型コロナワクチン接種対応です。最近の日本語の乱れは嘆かわしい。漢字表示が仮名に変わったり、従来の糖尿病がダイアベータスになるなんて。岩倉は長男に院長職を譲って、時々アウスをやったり正常分娩に立ち会ったり。孫が慈恵医大を出て産婦人科医となり、将来岩倉病院を継いでくれるうで楽しみである。9月に2人目の曾孫(男児)が生まれました。今朝突然、嘔気嘔吐に見舞われ、プリンペラン注で軽減したもののこの会への出席が危ぶまれたので妻に同伴して貰った。この年になると何が起る

かわからないものです。欠席者の理由は、体調不良(フレイル)が、大原啓介君、小野伊佐夫君、砂倉瑞良君、将基面誠君。老々介護が、布施吉弘君、渡辺實君。歩行障害が、勝田貞夫君、宍倉正胤君、油井信治君。脊柱管狭窄症が、斉藤全彦君、高柳博海君。病氣療養中が佐々木守君、高梨健治君。その他、田島誠君は週3日働いているが歳出が億劫である。福士和夫君は一応元気で朝夕散歩を楽しんでいる。テニスもスキューも出来なくなり読書に専念している。人間誰でも85年以上生きると身体はどこかに不具合が生じるものだが皆それぞれ一病息災、二病息災、三病息災で、上手に病と付き合っている様です。

最後に記念の集合写真を撮って再会を約してお開きとなった。

写真右から  
前列…中村嘉孝、石山淳一、岩倉弘毅、安達恵美子、油井真知子、瀬川襄、伊藤治武、日浦利明、森豊後列…井坂誠二、伯野中彦、土井修、入枝幸三郎、山本駿一、大野孝則、吉川正宏、綿引義博、小野幸雄

君は週3日働いているが歳出が億劫である。福士和夫君は一応元気で朝夕散歩を楽しんでいる。テニスもスキューも出来なくなり読書に専念している。人間誰でも85年以上生きると身体はどこかに不具合が生じるものだが皆それぞれ一病息災、二病息災、三病息災で、上手に病と付き合っている様です。



### 96-02 クラス会 (平8入学-平14卒業)

令和6年4月28日(日)曜  
日午後千葉駅ビルペリエ  
ホールにて、1996年入  
学・2002年卒業および  
そこに関係した方々のクラ  
ス会を開催いたしました。  
卒業後22年で初開催です。  
遠くは上海や熊本、近くは  
大病院勤務者まで54名の  
現地参加と1名の動画参加  
をいただきました。開催半  
年前から幹事団(田中純子・  
石橋啓如・岡田恭子・神田  
真人・守屋拓朗)を結成し  
入念な準備を重ね当日を迎  
えました。

卒業以来、初めて千葉に  
降り立った方もおられ、千  
葉市街はもとより亥鼻キャ  
ンパスや大病院の変わり  
様に、驚きを感じておられ  
ました。一方、同級生は時  
の経過を感じさせない方ば  
かりで、すぐに学生時代に  
戻ったような感覚を覚えま  
した。

田中純子幹事長の挨拶、  
同級生の両親で御年80歳を  
越された上野高尚さんによ  
る乾杯が始まり、歓談を挟  
みながら参加者全員が近況  
報告をいたしました。時間  
の経過やそれぞれの立場の  
変化、人生の転換点に差し  
掛かった心境、これからの

人生での取り組み・過ごし  
方など、皆が共感した時間  
でした。また今までに亡く  
なられた同級生にも黙とう  
を捧げました。

鎌谷洋一郎・東京大学大  
学院教授は、出張先から動  
画メッセージにて、ゲノム  
領域で世界を牽引するご活

躍と学生時代と変わらぬ交  
を届けてくれました。清水  
逸平・国立循環器病研究セ  
ンター部長からは、国際研  
究に関する楽しさと苦勞を  
お話しいただきました。今  
回は残念ながら不参加でし  
たが、篠崎広一郎・近畿大  
学医学部救急医学教授のご



活躍も同級生にとつてうれ  
しいお話でした。

3時間という時間はあっ  
という間に過ぎ、最後は全  
員で記念撮影をしました。  
その後場所を移して、二次  
会(34名参加)・三次会(11  
名参加)と続きました。「本  
当にいい会だった」「学生時  
代を過ごした同級生はやほ  
り最高!!」という言葉をも  
多くいただきました。当日の  
写真・動画をライブで共有  
したことにより、参加でき  
なかつた方々からも多くの  
反響をいただきました。幹  
事団としても、「本当にやっ  
てよかった!!」と感じた一  
日でした。今回は同級生の  
約半数のご出席をいただき  
ました。それぞれ各地での  
再会と次回クラス会開催を  
約束し散会となりました。

#### 写真右から (守屋拓朗)

前列：橋香穂理、久我紘子、  
有山幸紀、上原ゆり子、岡  
田恭子、上野高尚、田中純  
子、坂本陽子、外池百合恵、  
福岡みずき

中前列：守屋拓朗、岩田曜  
山内圭太、北原秀喜、伊狩  
潤、和田啓伸、吉川真太郎、  
東嘉軒、村上智子、高橋正  
憲、柴玉珠、椎名由美、原  
田美穂

中後列：坂田礼、秋田新介、  
赤荻悠一、杉浦寿彦、澤井

撰、田島敏樹、高岡浩之、  
宮崎兼考、辰巳智章、宇高  
靖、河合繁夫、竹尾悟、田  
沢和雄、石橋啓如、岩沢俊  
一郎  
後列：池上史郎、神田真人、  
仁科洋人、笹原資太郎、加  
地竜士、鶴岡弘章、吉井淳  
竹田勇輔、石崎俊介、中島  
正之、水野嘉信、今井逸雄、  
半田聡、賀川真吾、清水逸  
平

### 昭和51年卒クラス会

令和1年に開催されて以  
来Covid-19の流行により  
開催できずにいました昭和  
51年卒クラス会を、令和6  
年4月14日5年ぶりに開催  
しました。幹事は第一外科  
グループの村松幸男、山本  
和夫が担当しました。会場  
は日比谷松本楼で北は宮城  
県、南は沖縄県から34名の  
同級生が集まりました。司  
会は村松が担当し、会に先  
立ち物故された同級生の冥  
福を祈って黙とうを捧げま  
した。和気あいあいと会が  
進み、近況報告では後期高  
齢者となった人もいて病氣  
の話が多く出ましたが、出  
席者は皆元気でした。記念  
の集合写真を撮り、次回の  
再開を約束して閉会となり  
ました。

#### 写真右から

前列：福富真紀、伊古田(古  
藤)裕子、山崎(角田)広  
子、菅井桂雄、大山欣昭、  
小松健祐、村松幸男、山本  
和夫、小野(泉)元子  
二列目：寺野隆、塚本剛、  
高瀬利男、高橋和久、原仁、  
西本良博、内藤仁、小野和  
則、武田憲夫、平井康夫、



蒔田(宮沢)順子  
後列：川村健二、由佐俊和、  
篠塚正彦、松谷正一、我那  
覇仁、門山周文、小野純一、  
檜山幸孝、坂本薫、大須英  
夫、蒔田国伸、林春幸、縄  
田泰史、河合誠義、上原哲  
夫  
(山本和夫)

# 研修プログラム

## 千葉大学医学部附属病院

### 皮膚科

千葉大学大学院医学研究科 皮膚科学

教授 猪 爪 隆 史 (山梨医大・平10)

皮膚科は、皮膚という全身最大の臓器に生じる、炎症、腫瘍、感染症など、多様な疾患を担当します。視診、触診、エコー等の一般的な方法に加えてダーモスコピーと呼ばれる専門的な知識と技術を追加して鑑別疾患群を想起し、皮膚生検と病理検討を自ら行って確定します。治療方法も外用、内服、手術に加えて、紫外線療法、放射線療法、最新の分子標的療法まで多岐に渡ります。患者層は新生児から高齢者まで幅広く、患者のニーズと医療のゴールも多様です。さらに他科の診療中に生じる皮膚トラブルへの対応や、内臓疾患や全身性疾患の兆候として現れる皮膚症状(デルマトローム)の発見によって、他科に貢献することも重要です。以上から皮膚科医には、皮膚疾患についての専門的知識と診療技術に加え、他の臓器疾患との関連を理解し、

他の診療科やコメディカルスタッフと適切な連携体制を作る能力が求められます。

千葉大学医学部附属病院皮膚科では、千葉県内ほぼ全域から集まる多様な皮膚疾患について、common diseaseから高度医療を必要とする症例までを満遍なく研修可能です。専攻医は初診患者の問診、身体診察、ダーモスコピーおよび高周波エコーの実施とその解釈に基づいて予診カルテを作成します。手術検討会においては手術計画を考えて提示し、病棟入院患者については初期治療計画を作成します。そしていづれにおいても指導医の視点より優れた点と改善点についてフィードバックを受けます。特に皮膚科では、可能な限り多くの皮疹を観察してより多くの鑑別疾患を想起するトレーニングが重要です。そのため毎週木曜日に、全ての初診患者の皮疹の写

と生検組織所見を全員で供覧し、詳細な解説と議論を行っています。手術や論文執筆など、習熟するために多くの経験を要するものについては、上級医の指導のもとでより多くの経験が得られることに配慮し、配置と症例割り当てを行っています。

皮膚科も他の診療科と同様に医療の幅が広がり続けています(生物学的製剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、遺伝子検査に基づく治療方針の決定など)。当科でも、全ての皮膚疾患について対応できる十分な知識と技術と判断力を備えた皮膚科医を育成するため、専攻医は各曜日に配置された専門外来(アトピー、乾癬、腫瘍、ダーモスコピー、パッチテスト、脱毛症など)をローテーションで研修するシステムをとっています。特定の領域に深い関心を持った場合には、全体のバランスを鑑みつつ、それについて重点的に研修することも奨励しています。

当院は昭和58年(1983年)に開院しました。救命救急センターを併設し、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院に認定された高度急性期病院です。また、大学病院本院に準じた診療密度と一定の機能があるDPC(特定病院群の医療機関に認定されています)。

## 船橋市立医療センター

院長 茂 木 健 司 (昭63)

現在、31診療科449床(緩和ケア病床20床含む)で運営しています。最寄り駅は「船橋駅」で、「東京駅」から総武線快速で24分。病院は、「船橋駅」からバスで12分のところにあります。東京へのアクセスは抜群です。初期研修医は駅周辺または病院近くに居住しています。現在、初期研修医(25名)を含め173人の常勤医師が診療にあたっています。

2年間の初期研修終了後、

は24時間の休暇をとってもらいます。各科指導医の指導を受けながら、common diseaseから多発外傷、精神疾患におよぶバラエティ豊かな症例を経験することが出来ます。診療科を超えた横断的連携による総合的な臨床研修を体験できる環境を整備しています。地域医療は、船橋市内のクリニックでの2週間の診療所研修と、更に2週間の北海道または沖縄の病院での僻地研修と訪問診療研修が受けられます。



病院敷地内に、船橋市消防局の救急ステーションが設置され、「ドクターカー」が運営されています。最寄り駅は「船橋駅」で、「東京駅」から総武線快速で24分。病院は、「船橋駅」からバスで12分のところにあります。東京へのアクセスは抜群です。初期研修医は駅周辺または病院近くに居住しています。現在、初期研修医(25名)を含め173人の常勤医師が診療にあたっています。

追悼

藤村眞示先生の思い出に添えて

千葉大学名誉教授 (遺伝子生化学)

瀧口 正樹 (昭56)



本学名誉教授(生化学第一講座)藤村眞示先生におかれましては、2023年(令和5年)11月7日に永眠されました。享年90歳でした。

先生は1933年(昭和8年)5月19日、愛媛県松山市にてご出生、県立西条北高等学校から本学に進まれ、1960年(昭和35年)のご卒業です。国立国府台病院における1年のインターンの後、大学院医学研究科に入学され、当初、第二外科において中山恒明教授の薫陶を受けられました。翌年からは三浦義彰教授の医化学教室に移り、降矢震助教授の指導のもと、ホスファターゼ活性測定法の研究に従事されました。大学院修了とともに1965年(昭和40年)医化学

教室の助手となられ、国立がんセンター研究所生化学部へ出向されました。杉村隆部長のもとで、メチルニトロニトロソグアニジン(MNZG)を用いて、世界で初めて、ラットに胃癌のモデルを作ること成功されました。また、ほぼ同時に当時第三の核酸といわれたポリADPリボースを発見されました。これらはいずれもノーベル賞級のご研究と賞賛されました。1969年(昭和44年)より米国コロンビア大学癌研究所にご留学、ワインシュタイン教授のもとで肝臓誘発物質による転移RNAの特異的な修飾を発見されました。1971年(昭和46年)ご帰国後、千葉県がんセンター開設とともに研究局生化学研究部長に就任され、同センターが頭初より世界水準にて発進する原動力として貢献されました。1981年(昭和56年)本学医学部生化学第一講座教授に就任され、以来18年

にわたって研究・教育に情熱を傾けられました。先生のモットーは、新しい「アスペクト(視座)」を見出すことであり、一貫して、癌および担癌体の生化学的特性の解明を、癌の診断と治療に結びつけることを目標とされました。癌の増殖を特徴付けるヌクレオチド合成系酵素に焦点を絞り、なかでも、リボヌクレオチド還元酵素の機能の多様性、チミジンキナーゼの分子多様性に関するご研究では獨創性を遺憾なく発揮されました。また、胃癌がMNZGのようなニトロソ化合物で誘発されることから、これが遊離する酸化窒素に着目し、発癌との関係を究明されました。先生は大学公務にも意を注がれ、殊に、国際交流委員会にあつては、イタリヤご出身のアルベルティーナ奥様共々公私にわたり多くの留学生の支援にあたられました。また、学生の課外活動にも熱意を示され、山中寮と勝山寮、学生寮の雄翔寮の顧問を務められました。さらに、全学ヨット部の顧問として、文部省の特例予算によりクルーザー「黒潮IV世」を建造、3度に亘ってヨーロッパ学生選手権大会に本学学生を日本代表と

して送り出すなど、ここでも国際色豊かなご貢献をされました。先生は実直・真摯、寡黙にて悠揚迫らず、背中姿で人を率いるお人柄であられました。その一言一言は、柔和なお顔立ちと相まって、人々を和ませてくださるものでした。ご退官後も、同門会等にお元氣なお姿を見せられ、ある年、「私は地味だと思われている様だけど、実は派手好きなんだ。」と仰せになり、座を沸かせられました。初め意表をつかれた思いの参加者も、奥様のお見立てでしょうか、イタリアンダンテイズム漂う先生の装いに、みな納得したことを昨日のこの様に想い出します。藤村先生の在りし日のお姿を偲び、医学と人々に対するご貢献に感謝し、心より哀悼申し上げます。



神奈川るのほな会 令和6年 34号

Cover of the magazine 'るのほな かながわ' featuring a photo of the Chiba University School of Medicine building and the title in large characters.

Table of contents for issue 34, listing sections like '巻頭言', '追悼', '病院めぐり', and '編集後記' with corresponding page numbers.

静岡のはな会
令和6年1月 第32号

静岡のはな会
発行 令和6年1月吉日
第32号
発行：静岡のはな会 会長 宮本 恒彦
編集：なのはな静岡同窓会 編集委員会

目次
静岡のはな会の過去と未来
総会報告
学術講演会
「医療現場におけるデジタル決済の未来」
シネマコンプレックスと病院の外来
理事会報告
会員名簿
掲示板
編集後記

千葉県のはな会
令和6年3月 第24号

千葉県のはな会誌
(特集) コロナ禍の4年を振り返る
～困難な中で工夫、余暇における楽しみ～
Vol. 24 No. 1 2024年(令和6年)3月号

目次
巻頭言
Essay
《特集》コロナ禍の4年を振り返る～困難な中で工夫、余暇における楽しみ～
報告
編集後記
投稿規定

表紙
「新医学科棟から望む連絡通路の桜」
三澤 尚子 (H11)

千葉県みのはな会

若手研究者のリレーエッセイ

古 矢 裕 樹 (平24)

1. はじめに

2021年6月より米国 Harvard Medical School, Beth Israel Deaconess

Medical Centerにポスドク

研究員として在籍している

千葉大学アレルギー・臨床

免疫学の古矢裕樹と申しま

す。桐山加奈子先生よりパ

トンを受け取り執筆させて

いただくこととなりました。

執筆時点で留学一年半と道

半ばではありますが、充実

した環境での研究、国内・

海外を問わない多くのお会

い、そして何より家族との

幸せな時間を過ごしており

ます。研究留学にあたって

は金銭的な負担はもとより、

妻のキャリアパスを犠牲に

しているのか、臨床医とし

てのキャリアを中断して研

究に専念するのが本当に自

分のやりたいことなのか等、

多くの悩みがありました。

しかしながら、上述のよう

に想定以上に充実した毎日

を過ごしております。本エッ

セイでは研究留学を考えて

いる方の参考になることを

願ひ、私の留学に至るまで

の経緯や留学で学んだこと

をお伝えさせて頂ければと

思います。

2. 研究を志すまで

私は元々明確な理念はな

いものの、漠然と社会に貢

献したいという稚拙な思い

を抱いていました。そのた

めには医師としての自己研

鑽と教育活動が重要であろ

うと考え、膠原病科専門医

としての研修の傍ら成田赤

十字病院で研修医勉強会の

設立・運営を行い、同時期

には医学生と研修医対象の

勉強会グループ「関東若手

医師フェデレーション」の

立ち上げと運営に関わりま

した。同グループに在籍し

ていた藤井達也先生(千葉

大卒業生)、中山俊先生が

ANTIAという医師同士の

質問解決プラットフォーム

を提供するベンチャーを起

業されたタイミンクでもあ

り、こういった方向性で社

会にアプローチすることが

出来るのかと驚かされまし

た。一方で、自分自身もい

決めて深掘りしなければという焦りも生まれ、改めて自分何が出来たのか、何をしたいのかと問いかけました。私の専門の膠原病科は、科の特性上指定難病疾患に認定される患者が極めて多い領域です。現行の治療法では十分な寛解が得られないことや、患者ごとの最適な治療が実際に試すまで分からないことが多く、寛解しても副作用の多い薬を飲み続けたいといけないといった明確な課題があります。患者を取り巻く社会課題の中でこのような患者の治療成績とQOL向上を目指すことが一番リアルに感じたこと、また、免疫抑制薬が治療の根幹となる以上免疫学に関する知識を深める必要があると感じたことから、それまで考えていなかった研究への門戸を叩くこととしました。

3. 大学院での生活と留学を意識するまで

アレルギー・臨床免疫学

教室では岩田有史先生、中

島裕史教授の指導の下で大

学院生活を送らせていただ

きました。岩田先生が調達

された潤沢なAMEDの

大型研究費に加え、リー

ディング大学院によるご支

援も頂いたこと、2台のフ

ローサイトメトリーとその

他基本的なequipmentが

揃った恵まれた研究環境で

先生より受けました。確かに既存のものを調べるだけの前者と新たな手法のセットアップやhuman errorが避けられない後者を比較することは明らかに不適切であり、この言葉は私を生産性の呪いから解き放ちました。同時にその苦しみを知ったことで掲載ジャーナルを問わない他者の研究へのリスペクトが生まれ、自分も後者の側に立ちたい、より深くscienceに向き合いたいという思いが生まれ留学という選択肢を真剣に考え始めました。しかしながら留学のための金銭的な負担、妻のキャリアパスへの障害、臨床医としてのキャリア中断の是非など、留学すべきでない理由も多くあり悩む日々でした。最終的には給与は現地でNH基準のポスドク給与が出ること、妻の会社が3年までの休職制度があったこと、臨床医としてのキャリア中断は長期的には免疫学に根ざしたphysician scientistとしてのキャリアにプラスになるであろうと考えました。加えて、元々夫婦共にアメリカ国籍保持者であり米国生活への抵抗が少なかったこと、子供への教育面でのメリットや、家族で過ごす時

間は日本よりも取れるであろうこと、そして何より妻が自分の気持ちを尊重してくれたことから、留学を決めました。

4. 留学先の選定

膠原病領域の中でもtrans-

lationalな研究をしたいと考

え留学先のリストアップを

はじめ、Harvard Medical

School, Beth Israel Dea-

coness Medical Centerの

Iannis Adamopoulosとい

う乾癬性関節炎という膠原

病疾患の研究で高名な先

生のところに留学すること

となりました。一般的に留学

にはCV(履歴書)、推薦状

の書類審査の上で面談にて

採用可否を決定するという

プロセスが一般的です。面談

時まだ基礎研究論文は形に

なっており不利な状況で

したが、筆頭著者の臨床論

文が4報あったこと、成田赤

十字病院と千葉大学医学部

附属病院における教育活動

から院長賞/最優秀指導賞

と、リーディング大学院に

て最優秀大学院学生賞を頂

いていたこと、2つの国際学

会からawardを受賞してい

たことからCVを充実させ

ることができました。CVの

重要性はそれまで全く知り

ませんでした。暗黒模索

の回り道をしたが、過去の

活動も何らかの形で自分

の将来に寄与してくれるのだと実感しました。CVに加えて、中島教授、廣瀬教授、中山教授に強力な推薦状を書いて頂いたこと、岩田先生を始めとした医局の先生方にプレゼンテーションをご指導頂いたこと、コロナ禍でポスドクが不足していたなどの因子もあり、速やかに採用頂けることとなりました。

また、留学を考える若

手膠原病科医向けのスラッ

クグループには留学先の情

報収集と現地での生活につ

いて、アメリカ国籍保持者

の海外留学相談については

JIA海外日本人研究者ネッ

トワークを通じて大変多く

の方々のお世話になりました。

前者を通じて日本各地

の膠原病科医と繋がりが出

来、後者を通じてこれが

縁で2021年にJIA主

催のシンポジウムにて登壇

することになり、留学前か

ら自分のネットワークが広

がっていき高揚する気持ち

を覚えました。

5. 米国での研究生生活

2021年6月より渡米

し留学生生活が始まりました。

これまで当たり前のように臨床と研究を両立させてきましたが、その全てを

研究に向き合える生活は想像

以上に充実したものです。

日本での可処分時間の少な... 開放され、実験計画の立案... 識の獲得に時間をかけるこ... ことでより真摯にscienceに向... き合い、結果に一喜一憂し、... scienceの楽しみを純粋に享... 受することが出来るように... になりました。指導者のIanni... は所属施設のPathogens... Immunity and Inflamma-... tion Translational Hubの... directorでもありながら、... 複数の国際学会のモデレー... ターやNIHのグラントレ... ビューを兼任する極めて多... 忙な方ですが、毎週必ず1... 時間以上各ラボメンバーと... のone on one meetingを... 行っていました。これが非常... に学びに満ちたものでした。

ながらストーリーとの整合... 性を確認し、改めて仮設の... 妥当性を検証します。この... ような速やかな論文publish... をゴールに据えた戦略性は... 私に足りないものであり、こ... れが論文・グラント執筆を... 同時進行で複数進行させる... 秘訣なのかとも納得しまし... た。さらに幸運だったのはI... annisがこちらの意見に耳... を貸さない指導者ではなかつ... たことです。実験の必要性... に対して意見が異なるとき... もこちらが考えるその意義... について理論立てて説明を... した場合には方針が変わる... ことも稀ではなく、自分の... discussion能力向上に役立つ... と共に、excitingで建設的... な時間を過ごしています。

周囲の研究者の経験含めて... お話をしてくれました。... このように、米国での研... 究留学経験は私にScience... の楽しさと、Scientistと... しての生産性を高める方法... を学ばせてくれてています。... これは、帰国した際に改め... て臨床と研究を継続した際... の財産になると確信してい... ます。引き続き、結果を出... せるように尽力したいと思います。

6. 米国での生活... 留学は妻と当時2歳の娘... との3人で開始しました。... ポストンは米国の中でも... Top3に入るぐらい家賃が... 高い地域ですが、COVID... 禍であったのが不幸中の幸... いで家賃が最安値の状態... 契約することが出来ました... (それでも\$2000/月... と高額ですが)。妻と娘が馴... 染んで幸せな生活を送って... くれるのが留学前最大の懸... 念事項でしたが、ポストン... には日本人も多く、二人共... 速やかに日本人の友人が出... 来たことも幸運でした。留... 学先での子育ては金銭面を... 除けば最高で、様々な遊具... のある公園が豊富にあり、... 子供好きな方が多く、子供... と歩いているだけで多くの... 方が声をかけてくれます。



2021年Thanksgiving, Iannis宅にて

Day care (保育園)は高額... ながら教育的で、子供がど... どん新しい言葉を覚えて... 英語があつという間に日本... 語よりも多くなつてしま... いました。どちらも中途半端... にならないかと心配事は尽... きませんが、良い刺激を沢... 山受けて楽しんでくれてい... るようです。

また、こちらでは家族と... 過ごす時間が圧倒的に増え... プールやハイキング、料理... を一緒に楽しむ時間が出来... ました。妻は元々仕事が大... 好きだと知っていたので、... 休職して帯同することがス... トレスにならないかを心配... していましたが、ある時し... んみりとこうして家族で一... 緒に楽しめる時間が増えて

7. 次へのバトン... 最後に、このリレーエッセ... イのバトンを同じく平成24... 年卒、心臓血管外科医の坂... 田朋基先生にお渡ししたい... と思います。Iahn School... of Medicine at Mount... SinaiのResearch fellowと... して働く傍らUSMLEを... Passし、このエッセイが掲... 載される頃には米国で心臓... 血管外科医フェローとして... トレーニング予定となつてい... ます。才能と努力の末に非... 常に狭きキャリアパスを実... 現させている私の尊敬する... 友人であり、彼のエッセイ... を読むのをとても楽しみに... しております。

2024年 第49回 ゐのほな美術展 -千葉大学医学部OBによる美術展- 9月9日(月)~9月15日(日) AM11:00~PM6:00 最終日3時まで 初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第49回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

8. 謝辞... 留学に際してお世話にな... りました全ての先生方、特... に中島裕史教授、岩田有史... 先生にこの場をお借りして... 感謝を申し上げます。第... 23巻第1号 令和5年3月... 1日より転載)

欧州医学史巡り

ロンドン—ゴードン博物館

杉田克生(昭54)

2012年春ロンドン市内のガイ病院を訪れた際に見学したThe Gordon Museum (以下ゴードン博物館)を紹介する。ここは臓器別に膨大な病理標本が吹き抜けのホールの各階に展示されている。この施設はKing's College Londonの医学部施設としても活用されており、圧倒的な標本数を誇っている。医学生なら誰もが習うアジソン、ホジキン、ブライト三偉人が働いた病院で、彼らの名前がついた疾患の病理標本が展示されている。なかでも印象に残ったのは、ホジキン病「元祖」標本である。

ホジキン(本名Thomas Hodgkin)は、1798年8月17日ロンドン郊外のペントンビルに住むクエーカー教徒の家に生まれた。21歳で医師をめざしガイ病院に入り、医学を学んだ。その後エジンバラ大学を経て、1821年にはパリに留学した。当時はフランス医学の影響もあり、病理解剖から生前の臨床症状を説明する現代版「臨床病理

の創世記であった。彼は学生時代から病理解剖に興味があった。パリに留学し、病理医であるとともに内科医として働き、その後ガイ病院初代病理解剖の講師として勤務した。彼の精力的な病理標本収集が、今日のゴードン博物館(写真)の母体となっている。

1832年王立医師会の例会で、On some morbid appearance of the absorbed glands and spleen、

を発表した。続いて機関紙「Medico-chirurgical Transactions」に掲載されたが、反響は全くなかった。この発表の24年目の1856年同じく病理医で内科医のサミュエル・ウィルクスにより再発見された。ヴィクトリア女王の侍医でもあったウィルクスは最も忠実なホジキンの医学的擁護者となり、ホジキンの優先権を明確に示した。その後1865年にはホジキン病と呼ぶことが承認された。

ホジキンは1837年ガイ病院準内科医への昇進が選挙で選ばれなかったことか



写真 ゴードン博物館前景

ら、ガイ病院を去った。その後病理学から手をひき、当時植民地で未開地であったカナダの原住民が近代文明に侵されることを危惧し、奴隷制に反対するなど人権保護や慈善事業に情熱をそそいだ。肉眼的解剖所見から、ホジキンリンパ腫なる疾患を見出し、その名を残したホジキンは、「社会的正義の眼」も有していたことを記憶しておきたい。



第99回千葉医学会 学術大会

日時：2024年10月25日(金曜日) 15:00~17:15  
会場：千葉大学るのほな記念講堂

特別講演

「意思決定の脳科学」

演者：岩立康男先生(東千葉メディカルセンター センター長)  
座長：樋口佳則先生

招待講演

「脳神経外科治療の最前線：局所からネットワークへ」

演者：樋口佳則先生(千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学 教授)  
座長：岩立康男先生

- ◆参加費：無料
- ◆申込手続：不要 (WEB配信はありません)

本講演会は日本医師会生涯教育講座(1単位, CC:0)として承認されています。

問合せ：千葉医学会

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・るのほな同窓会館内  
TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757  
e-mail: info@c-med.org URL: https://www.c-med.org



岩立 康男 先生



樋口 佳則 先生



## 令和6年卒業生の卒業後研修先

1年目	2年目	人数	1年目	2年目	人数
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	6	三井記念病院	三井記念病院	1
虎の門病院	虎の門病院	4	焼津市立総合病院	焼津市立総合病院	1
松戸市立総合医療センター	松戸市立総合医療センター	3	深谷赤十字病院	深谷赤十字病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	3	聖路加国際病院	聖路加国際病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	3	静岡赤十字病院	静岡赤十字病院	1
千葉労災病院	千葉労災病院	3	千葉メディカルセンター	千葉大学医学部附属病院	1
JCHO東京新宿メディカルセンター	JCHO東京新宿メディカルセンター	2	千葉市立海浜病院	千葉市立海浜病院	1
公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	2	千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	1
公立昭和病院	公立昭和病院	2	千葉西総合病院	千葉西総合病院	1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	2	千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	1
小張総合病院	小張総合病院	2	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	1
松戸市立総合医療センター	千葉大学医学部附属病院	2	総合病院国保旭中央病院	総合病院国保旭中央病院	1
千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	2	筑波学園病院	筑波学園病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	2	中東遠総合医療センター	中東遠総合医療センター	1
船橋中央病院	船橋中央病院	2	都立大塚病院	東京医科歯科大学病院	1
東京警察病院	東京警察病院	2	東京医科大学病院	東京医科大学病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	2	東京女子医科大学八千代医療センター	東京女子医科大学八千代医療センター	1
さいたま市立病院	さいたま市立病院	1	東京通信病院	東京通信病院	1
医療法人社団 誠馨会 セコメディック病院	医療法人社団 誠馨会 セコメディック病院	1	東京都健康長寿医療センター	東京都健康長寿医療センター	1
横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	1	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	1
岡山大学病院	岡山大学病院	1	東京都立駒込病院	東京都立駒込病院	1
千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	1	東京都立墨東病院	東京都立墨東病院	1
岩国医療センター	岩国医療センター	1	東京北医療センター	東京北医療センター	1
君津中央病院	君津中央病院	1	国立病院機構長崎医療センター	国立病院機構長崎医療センター	1
群馬大学附属病院	群馬大学附属病院	1	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1
公立昭和病院	済生会新潟病院	1	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
総合病院国保旭中央病院	総合病院国保旭中央病院	1	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	1
国立国際医療研究センター病院	国立国際医療研究センター病院	1			

(令和6年3月27日現在)

# 学内情報

## あのはな同窓会支援

### 第17回

## Basic and Clinical Research Conference が開催されました

あのはな同窓会理事 (総務担当)

安 西 尚 彦 (平)

令和6年2月1日に、あのはな記念講堂とZoomとのハイブリッド形式で「第17回ちばBCCR」が開催されました。ちばBCCRは、医学部生のリサーチマインドを涵養することを目的として、スカラシッププログラム(研究室配属)の研究成果を発表する場であるとともに、

例年医学研究院の基礎と臨床の教室からそれぞれ1名の教授による研究室紹介、そして特別講演などの全ての企画が、有志の学生事務局員により企画・運営されています。

今回の参加者は医学部学生367名、教員・来賓等18名で、



は救急集中治療医学中田孝明教授が「未来を切り拓け」というテーマで敗血症から機械学習を用いた予測診断、アナログからデジタルに切り替える困難さについての話を、基礎からはイノベーション再生医学高山直也准教授が前駆細胞リプログラミングと老化についての話をされました。

三木隆司医学部長の含著のある感動的な講評を頂きました後、スカラシップ賞に続き、吉原俊雄同窓会長からあのはな同窓会賞の

### 第17回ちばBCCR

#### 最優秀賞を受賞して

医学部4年 北 島 真 綾



表彰が行われ、千葉医学会奨励賞の授与が行われました。今年の千葉医学会賞は同点であったことから2名に授与されました。

最後の特別講演は昨年同様整形外科学大鳥精司教授の座長により、先端応用外科学教授の松原久裕先生により「難治性食道癌への挑戦」というタイトルで行われ、千葉大学の治療学を支えてきた外科学の歴史から今後についての教育的なお話をいただきました。

果を有する新規化合物の作用機序の解明」について発表いたしました。p53はがん抑制タンパク質で、細胞内のDNA損傷が修復不可能な場合にアポトーシスを誘導します。ヒトのがんの約半数はp53に変異のない野生型p53を有しているがその機能が阻害されていると考えられており、p53の機能を回復させて利用する治療が期待されます。

本研究では、独自に同定した新規化合物の、がん細胞に対する抗増殖作用

の詳細と機序を解明しました。細胞増殖解析、細胞周期解析、RNAシークエンス等の結果から、本化合物はp53野生型がん細胞に対し強い増殖抑制作用およびアポトーシス誘導作用を有していることがわかりました。さらに、本化合物の作用機序をp53の上流因子であるMDM2とAktに注目して解析しました。活性化型AktによってMDM2がリン酸化されると、MDM2は核内に移行しp53と結合してp53を分解することが知られています。ウエスタンプロット解析と蛍光免疫染色の結果から、本化合物はAktの活性化を抑制しMDM2のリン酸化と核内移行を阻害すること、p53

### 第17回ちばBCCR

#### 最優秀賞を受賞して

医学部5年 神 津 隆之介



の分解を抑制し、アポトーシスを誘導していると示唆されました。今後、作用機序をより詳細に解明していきます。

私は分子腫瘍学教室で、実験手技や解析手法から結果の発表方法まで、多くのことを学びました。学生のうちに基礎研究の最先端を知ることができ環境は大変貴重なものだと思っております。今後、臨床の現場に出てからも、基礎研究の視点を大切に医療に貢献できよう努力する所存です。

最後に本賞受賞にあたり、熱心にご指導いただきました金田篤志教授、喜多和子先生をはじめ分子腫瘍学教室の先生方に深く感謝申し上げます。

した。

ヘルパーT細胞とも知られるCD4<sup>+</sup>T細胞のうち、CD8<sup>+</sup>T細胞のようにPerforinやGranzyme Bといった細胞傷害物質を放出することで、細胞傷害活性をもつようなCytotoxic CD4<sup>+</sup>T細胞 (CD4 CTL) の存在が報告されており、CD4 CTLは慢性ウイルス感染の抑制や抗腫瘍効果を有することが知られており、本細胞に対する詳細な解明は免疫学的に大変意義深いものであります。しかしながら、本細胞の詳細な分化制御機構は明らかになっておりません。

そこで本研究では、①どのような環境でCD4 CTLが分化・増殖するのか、②どのようなサイトカイン条件にてその分化が促進されるのか、③分化に関わるマスター転写因子は何か、という3つの問いを立て、Bulk RNA-seq等様々な実験や解析を行う、CD4 CTLの分化制御機構に迫りました。今後は本研究で明らかになったマスター転写因子候補にCRISPR/Cas9 KOを用いて検討し、さらなる分化制御機構を探究したいと思います。

私はスカラシッププログラムの免疫発生学教室の

ご指導、ご協力のもと、本研究に携わることができました。本教室では、論文の読み方から実験手法やデータ解析の手法まで様々なことを学ぶことができました。今後も研究活動に励み、将来的には研究室の先生方のように、新しい知見を見つけ、新規治療に結びつけ、多くの患者さんを救うことができるような研究者になれるように、日々努力を重ねたいと思います。

私が研究に興味をもったきっかけとしては、以前の

この度は寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。昨年度、バイオリンの演奏で第25回日本演奏家コンクールの弦楽器部門にて第1位および読売新聞社賞をいただきました。本コンクールはトップレベルのコンクールといわれており、私が参加した部門は音楽大学の大学院生レベルを対象とし、私以外は音楽大学院在学者、音楽大学出身者で占められていました。一次予選、二次予選を経て9月に決勝

### 第25回日本演奏家コンクール 第1位（弦楽器部門） 読売新聞社賞 受賞

佐脇 怜緒奈（医6）

ちばBCRCにて研究発表されている先輩方の姿を見たことが挙げられます。そのようなBCRCで発表ができて、名誉ある賞を頂けて、光栄であります。本会の更なるご発展を心より祈念しております。

最後に、本賞受賞にあたり、ご指導頂きました平原潔教授、小久保幸太先生、新見理恵先生をはじめとする免疫発生学の先生方、耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学の花澤豊行教授に深く御礼を申し上げます。

かせていただいたことです。音楽と向き合う時間が幸せに感じられ、この先も音楽が身近にある生活を送りたいという気持ちを強くしました。そこで、バイオリンの演奏を再開して様々なことに挑戦しようと考え、昨年、オランダの音楽祭でのコンサート出演やこのコンクールに挑みました。

人の生命や健康を預かる医師を目指す勉学は大変厳しいものと覚悟していましたが、本学医学部のカリキュラムは、医学の勉強にとどまらず、人生を豊かにする趣味などに打ち込む機会をも与えていただけたので、本学に入学できた幸せを改めてかみしめています。音楽は医師としての職業や人生をより豊かにしてくれる



もの信じ、これからもバイオリンを続けていきたいと存じます。

なお、本コンクールの副賞として、今年11月29日夜、横浜みなとみらい大ホールにて東京フィルハーモニー交響楽団の伴奏でソリストとして演奏させていただきましたこととなり、音楽大学出身者以外がソリストに選ばれるのはコンクール史上初めてのことで大変恐縮しておりますが、精一杯練習して頑張ります。皆様にも聴きにきていただきましたら、とても嬉しいです。

(一) 連絡いただければ横浜みなとみらい大ホールのチケットをご用意いたします。info@inchana.jp)

千葉大学  
社会医学同門会

千葉大学社会医学同門会を新たに発足しました

吉村健佑（平19）  
尾内善広（大阪大・平6）  
令和6年1月6日、千葉大学医学研究公衆衛生学教室・予防医学センター・附属病院次世代医療構想センターを中心に、千葉大学社会医学同門会の設立総会を開催しました。本会は社会医学の発展に貢献する人々のネットワークを築くことを目的とし、羽田明先生（熊本大学・昭53年）を中心に組織されました。千葉大学の社会医学系の各教室、予防医学センター、附属病院次世代医療構想センターのOROQや、国・自治体で公衆衛生政策に携わる千葉大学の関係者が集まりました。当日は新しくなった医学研究棟や附属病院の見学を実施し、その後の設立総会では、役員も承認され本会の将来への道筋が描かれました。そして尾内善広教授（大阪大学・平成6）による特別講演「遺伝学研究による川崎病への挑戦」が行われ、その後はキャンパス内のレストランMOKUでの懇親会では世

が語られました。本会の設立は、千葉大学から社会医学の発展に対して大きな一歩を示すものであり、新たな動きとなりま

す。様々な背景を持つ同窓生が会し、社会医学に関する知識と経験、そして人の輪を醸成する場となることを期待しています。すでに当日の交流から研究・教育プロジェクトが複数動き

始めています。この新しい同門会が若手や学生の育成の場となるように、そして次世代にとって意義のある場となるよう育ててゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

役員  
会長・羽田明（熊本大学・昭和53）、副会長・矢島鉄也（昭和57）、杉戸一寿

写真 1月6日同門会設立総会



写真 1月6日同門会設立総会

(平成)元、幹事・尾内善広  
(大阪大・平成6)、近藤  
克則(昭和58)、吉村健佑  
(平成19)、田中良明(平成  
3)、寺谷俊康(平成16)、  
監事・林謙治(昭和46)  
〔令和6年度例会開催のお  
知らせ〕

令和6年6月29日(土)  
午後、あのはな同窓会館に  
て例会を開催します。入  
会希望者・例会への参加  
をご希望の方は「メール・  
cu.socmed@gmail.com  
電話：043-226-2069」ま  
でお問い合わせください。



眼科教室同窓会  
2023年 第60号



タッチパネル

小さな島の話

都川流花 (ペンネーム・昭36)

硫黄島近海で海底火山の活動が盛んになって噴煙が上がり、昨年(令和5年)11月21日から12月7日までに予定されていた硫黄島の第3回戦没者遺骨収集事業の中止を厚生労働省が発表したという記事が新聞に出た。それを読みながら私の中の記憶が80年前に巻き戻された。

太平洋戦争の末期、硫黄島での日米の戦闘だ。昭和16年の真珠湾攻撃に始まり、開戦からしばらくは連戦連勝のニュースに酔っていた日本だが、次第に潮目が変わってきた。昭和19年7月にサイパン島の守備隊が玉砕して米軍の占領下になり、日本本土は爆撃機の到達距離に入ってしまった。それまで、本土の日本人にとって戦場は全て外地だった。が遂に日本本土が戦場になったのだ。

しかし、サイパンから往復できるのは6,380キロの航続距離を持つB29爆撃機で、それを援護する戦闘機は航続距離が不足だったから護衛戦闘機なしの米軍の爆撃機は10,000メートル近い高々度からの爆撃しかできず、正確に照準を定めての爆撃ができる位置まで高度を下げてくることは躊躇っていた。また被弾して損傷を受けた機はサイパンまで戻れず途中の海に落ちていた。だからサイパンと日本本土の間にあり、飛行場を持つ硫黄島は小さな島とは言え日米双方にとって宝の島だったのだ。もし硫黄島が米軍の手に落ちれば日本は制空権を奪われて、戦闘機に護衛された爆撃機は爆撃に集中できる。

でも生々しく描かれている。アメリカは5日で占領できると踏んでいたが戦闘は一月に及んで、日本軍守備隊はほぼ全員の20,000人が戦死。アメリカ軍も6,800人の戦死を含む28,000人が死傷している。この戦闘での死傷者数は米軍が日本側を上回った。厚生労働省の関連に日本戦没者遺骨収集推進委員会という一般社団法人があり、海外各地での戦死者の遺骨収拾にあたってきているが、硫黄島に関しては硫黄島協会という組織がその役を担っている。

その硫黄島協会の現在の会長は3代目の寺本鐵朗氏だが、2代目会長を務めた西泰徳氏は戦車第26連隊の連隊長として硫黄島で戦死した西竹一の遺児だ。と言うより、1932年ロサンゼルス・オリンピックの馬術(障害飛越競技)で優勝したゴールドメダリストの遺児と言ったほうがわかりやすいだろう。西竹一はアメリカ人の間では「バロン・ニシ」の呼び名で広く知られていた。《バロン》は英語で《男爵》、西は男爵だった。

いまは日本人の金メダリストの数は多くなったが、1932年のロサンゼルス・オリンピック以前に金メダルを獲った日本人は1928年のアムステルダム・オリンピックでの織田幹雄(三段跳び)と鶴田義行(200メートル平泳ぎ)の2人しかいなかったから金メダルの重みは現在とは比較にならない。オリンピックに出場した時の西は騎兵中尉だったが、近代戦の中で騎兵隊は戦車隊に編成替えとなり西は戦車連隊長になっていたのだ。

日本軍が壊滅したあと、米軍が「バロン・ニシ、出てきなさい。我々はあなたを丁重に迎える」とスピーカーで呼び掛けたという《伝説》は、生還した大曲覚海軍中尉によって戦後に語られ、今となっては真偽の確かめようもないがいろいろな所に書かれている。

昨年(令和5年)の3月25日には硫黄島で日米合同慰霊祭が開かれた。合同慰霊祭は今までも行われ、以前は実際に戦った両軍の兵士も参加していた。硫黄島の話をごに書いたのには理由がある。バロン西の遺児として硫黄島協会の二代目会長を務

めた西泰徳の母親(西竹一の妻)は私の母の姉だ。硫黄島に出発するとき見送りに行った私の手に西は一枚のメダルを握らせ、「もし帰ってこなかったら、これを私だと思っただけでいい。私を大切に持っている。ささい」と言った。私は今でもそれを大切に持っている。西泰徳は既に故人となり、西竹一を直接知っている親戚は殆どいなくなった。現在の硫黄島に行ってみようかという気が起きたというのがその理由だ。硫黄島協会の事務局長の八巻功という人に電話をしてみた。この人の両親は昭和19年に結婚して父親は結婚生活3か月で戦場に赴き帰ってこなかった。父が硫黄島に行ったときは母親のお腹の中で、戦死のあとに誕生している。父親と会ったことはないそうだ。

わがざ事務局長に電話して次回の日米合同慰霊祭がいっつ行われるか尋ねたのは、「その機会がまたあれば今度は西泰徳の代わりに私が参加したい」と伝えたからだ。殺し合った者同士が慰霊祭の場で肩を並べられるものか私には想像ができません。硫黄島の話は、今迄の日米合同慰霊祭に棘々しい雰囲気はなかった。個人の意思ではどうにもならない大きな力の下で、祖国を守るという同じ目的のために命を懸けた者同士は戦友なのかも知れない。時の流れの中で互いの憎しみが敬意に変わっても不思議はないだろう。

硫黄島の話は、今迄の日米合同慰霊祭に棘々しい雰囲気はなかった。個人の意思ではどうにもならない大きな力の下で、祖国を守るという同じ目的のために命を懸けた者同士は戦友なのかも知れない。時の流れの中で互いの憎しみが敬意に変わっても不思議はないだろう。

わがざ事務局長に電話して次回の日米合同慰霊祭がいっつ行われるか尋ねたのは、「その機会がまたあれば今度は西泰徳の代わりに私が参加したい」と伝えたからだ。殺し合った者同士が慰霊祭の場で肩を並べられるものか私には想像ができません。

わがざ事務局長に電話して次回の日米合同慰霊祭がいっつ行われるか尋ねたのは、「その機会がまたあれば今度は西泰徳の代わりに私が参加したい」と伝えたからだ。殺し合った者同士が慰霊祭の場で肩を並べられるものか私には想像ができません。



# 同窓会員著書の紹介

松永正訓(昭62) 著

## 『開業医の正体 患者、看護師、お金のすべて』(中公新書ラクレ)

中央公論新社 定価 990円(税込)



医学生するとき、卒業試験で落第点をくらって整形外科の守屋秀繁先生と追試の面談をやりました。先生は、「研修医の2年が終わったら、一つのことをテーマに選び、10年一生懸命やれ。そうすれば必ずその道で名前が知られるようになる」と論してくれました。

なるほど、大学時代も開業医になってからも、10年を過ぎた頃から少しずつ自信みたいなのが心の内に生まれてきたような気がします。しかしそれは決して確信ではありません。はっきり言えば、今でも開業医という仕事に慣れません。当初イメージしたほどの開業医の理想の姿はブラックジャックです。え、手術の名人? そうではありま

せん。ブラックジャックは岬の突端の崖の上に自宅を構えています。患者は長い道を歩いて行って、ブラックジャック邸の門を叩くのです。ほくも患者さんに、そんなふうにはくを頼ってはるばるやって来てほしかったのです。でも、開業1年目からどつと患者が押し寄せてきました。大病院で診ていたような難しい患者はほとんど来ません。95%は、診断に困らない患者です。そして軽症の患者でもあります。このギャップには苦しみました。

でも、軽症の患者だからと軽く診療はせずに、患者家族が何を求め、何を心配しているかに真摯に向き合っているつもりです。たぶん、開業1年目のほくより、19年目のほくの方が、説明がはるかに丁寧になっていると思います。患者家族は、ほくの何をどう思っているのだろうかと不安になり

ますが、聞くのはちょっと怖いなという感じです。では、逆にほくの方から開業医が何を考えているのか説明しようと思いませんか? 誰にとっても関わり合いのある開業医という仕事の内容は、あんがい知られていないはずですよ。本書では開業医の舞台裏

篠宮正樹(昭50) 著

## 『老いの片道切符』



NPO小象の会

### この一年の活動

NPO小象の会、この一年の活動を報告します。会報を4回発行しました。36号(23年5月) 歯周病37号(23年8月) 糖尿病の早期治療の重要性(内田大

学先生) 38号(23年11月) 家族性高コレステロール血症(小林淳二先生) 39号(23年12月) 脳卒中予防(小林英一先生) 2024年1月にブックレット『老いの片道切符』(写真に表紙を掲載)を発売し、各方面に配布しました。

を包み隠さず書いてみました。シリアスな話もありました。ちょっと笑える話もあるでしょう。大病院に患者を送るとき苦労についても書きました。開業医が何を考えているか、よく分かると思います。同窓のみなさん、ぜひ手に取ってみてください。

老いに対して医学的な見地からの文章を載せ、さらに小象の会会員の老いに対する思いを掲載しました。「歳をとれたことは素晴らしい」とのメッセージを掲載しました。高齢者住宅での講話を文章化した実況中継冊子『人はどうしたら元気になるか』も作成して配布しました。ともに皆さんに元気になって戴こうという意図です。

2024年3月30日に4年ぶりの対面講演会「きつかつくりの運動実践」を開催し、盛会裡に終えることが出来ました。スマートフォンでのGoogleフォームで参加申し込みを行い、Zoomでの同時配信も行いました。後日、講演の模様をYouTubeで配信する予定です。高齢者こそ様々な情報

機器とそのソフトを使いこなすべきだと考え、啓発につとめる所存です。すでに会報上で、QRコードからたどるYouTube動画やその他の情報を提供しています。QRコードから篠宮正樹のニッポン放送出演をPodcastで聴けます。今後、眼を使わなくても情報を届けられる音声配信(これはすさまじい時間にながら聴きができる大きなメリット)があります。移動中

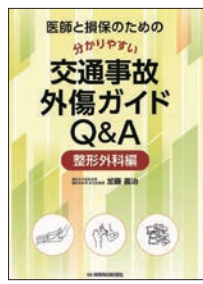
加藤義治(昭53) 著

## 『医師と損保のための分かりやすい交通事故外傷ガイドQ&A』

整形外科編

保険毎日新聞社

定価4,180円(税込)



交通事故賠償の現場では患者の治療経過をめぐり、医師と損保担当者の間で見解の対立が生じる場合があります。医師の説明が専門的、難解であるため、詳しい医学的知識を持ち合わせない損保担当者や一般の人にはその内容が分かりにくいことがその要因です。本書は、交通事故において出

や他のことをして、耳が空いている時間は平均1日8時間にのぼると報告されています。に注力していく所存です。私自身、このような情報発信方法の勉強を愉しんでいます。小象の会 <https://www.kozonokai.org>



現頻度の高い整形外科分野の傷害について、医師のみならず、損保関係者や一般の人にも外傷(とくに骨折)医療の基本的・普遍的な知識を提供し、正確で標準的な治療が理解でき、しかも一問一答のQ&A方式で平易に解説した医療ガイドです。著者は東京女子医科大学整形外科前主任教授で長年教育・研究・臨床に携わり、いまま医療現場で実際の治療に当たるほか、損害保険料率算出機構にも関与し、損害保険の分野にも関わった経験を生かし、これ

までの診療や医事相談を基に(本書を)書き下ろしました。難解な医学用語や治療方法などを分かりやすく解説し、図版や診断画像などを随所に織り込み、外傷(骨折)医療と損害保険を架橋する内容となっており、さらに医療に従事していない人々からの疑問・質問に専門医師が簡潔に回答する形で記述しました。本書を用いることで、医師は損保担当者や一般の人の具体的な疑問を解決でき、損保担当者、弁護士など一般の人は損害保険の補償・賠償保障に役立つ外傷医療に関する必須知識を習得することができます。さらに個々の傷害ごとに一般的な治療経過と内容を一望で図示した「治療アルゴリズム」を収録し、傷害の診断、治療(手術を含む)、リハビリ、予後合併症に至る治療のプロセスと期間を視覚的に把握することもできます。本書は、交通事故等による外傷医療に関わる医師や医療従事者、損保担当者、弁護士などにとって、外傷(骨折)医療と損害保険の査定や補償・賠償実務に活用できる必携書。

雑文雑談

清方残影

石出猛史(昭52)

国語辞典をひくと、「残影」とは夕ばえ・夕焼け・名残りとあり、「残照」とは夕日が沈んだあと、しばらく空の一部や山の頂などに照りはえて残っている日の光とある。日没に関する時間経過の違いを表現しているように思われる。

築地明石町と見返り美人

築地明石町は、1975年にサントリ美術館で展示公開されて以降行方が判らなくなっていたといわれている。これを国立近代美術館が買い取り、「美人画三部作」の他の二作品「新富町」「浜町河岸」と共に、2019年44年振りに公開展示した。2013年に千葉市美術館で開催された「築地清方と江戸の風情」では、当然この「三部作」は展示されていない。「築地明石町」の下絵が展示されていただけである。

清方は浮世絵の流れを汲んでいる。浮世絵とは一般庶民の生活や遊女・役者を題材とした風俗画で、江戸時代に町人の間から生まれ

た文化の一つであると解説されている。この風俗とは、その時代地域を特徴付ける衣食住などの生活を表す言葉で、飲み屋などの歓楽的遊興を意味するものではない。清方は「生活美術」という語を用いているが、これが浮世絵の風俗にあたるのではないかと考えられる。

大和絵の風俗画から浮世絵を大成させたと言われるのが、安房国保田(現安房郡鋸南町)出身の菱川師宣(1618-1694)である。師宣の代表作に「見返り美人」がある。千六百年代後期の若い女性が、当時流行の帯の締め方(吉弥結び)と髪形をして歩いている所を後ろから呼びかけられた姿を表した図である。

「見返り美人」が後姿を描いたものであるのに対して、「築地明石町」は前方から描いた作品である。筆者は清方が「見返り美人」を雛形として、「築地明石町」を製作したのではないかと推測した。しかし師宣は前方から描いた美人図を「立(ち)美人図」という表題で

数点描いている。この「立美人図」は懐月堂安度・英一蝶(1652-1724)・宮川長春(1682-1752)らの浮世絵の一派をなした著名な絵師たちが描いている。「立美人図」は浮世絵の美人画のテーマの一つになつていたのであろう。従って「築地明石町」は、「立美人図」をテーマにした日本画ではないかと推測される。

16歳で清方に嫁いだ照夫人(1886-1976)も、「紫泉」「小琴」などの雅号で日本画を描いている。「つみ草」「枕獅子」「歌妓」「雪姫」「ささ蟹」などの作品がある。義兄の都築真琴は、烏合会という若い画家の集まりで清方と同人であった。照夫人の父親は都築という旧幕府の旗本で実家があったのは牛込(現新宿区)である。

「多聞櫓文書」に収載されている、幕臣の履歴書である「明細細冊」「由緒書」によると、牛込に屋敷を拝領していた旗本に相当する都築氏は2家ある。どちら

も屋敷の所在地は月桂寺前仲の町である。履歴によると一つ目の当主は都築鎌太郎といって小姓組に番入りし、後に歩兵頭並に任ぜられた。同居している父兵庫

は禄高三百俵御役金八百両を拝領して御留守居支配を勤めた。もう一つの都築氏は姓だけで名は欠落している。禄高四百俵で元治元年(1864)和学所稽古人世話心得に任ぜられている。安政4年(1854)の「江戸切絵図」の牛込の図で、月桂寺門前に道路を挟んで都築兵庫と都築平右衛門の名が見られる。前述の姓だけで名が欠落した都築氏がこの平右衛門であろう。両家とも本國三河生国武蔵としていたので「族と推定される。照夫人の実家はこのどちらかであろう。

時代劇では、しばしば武士が自分を指して「拙者」という言葉を使わせている。旗本であった照夫人の父親は、自宅で目下の前では「おいら」、目上には「わたくし」を使っていたと伝えている。公の文書では「私」である。江戸語の字書によると、「私」は「自分を丁寧な場合用いる」とある。現代の国語辞典には「表現主体が自分自身をさしている語」とあり、丁寧という意味は込められていない。

同様に「おいら(俺等)」は「俺の複数」とあるが、都築氏の「おいら」の用法は明らかに一人称単数である。「おいら」は都築氏の家

内の年輩の女性も用いたという。同じ言葉でも時代が変わると、意味が少しずつ変わってくるという良い例であろう。前述の「拙者」は「目下や同輩に対して時に用いる謙遜語」と説明されている。「おいら」と同様であるが、漢語風なので少し気取った使い方のなるう。

江戸っ子を気取った幕府の御家人は「あつし」と自称した。辞書には「わたしの意味の職人語」とある。武士や商人は何代江戸に住んでも「江戸っ子」とは言わなかった。その対象となつたのは職人である。江戸風俗の研究史料として、しばしば引用される「半七捕物帳」の半七は、武士に対して「わたくし」を使っている。半七は日本橋の木綿店の通い番頭の倅である。従って職人の階層ではない。半七は岡っ引の親分ではあるが江戸っ子ではないのである。清方は自身を「下町生れの下町育ち」ということをしきりに強調しているが、「江戸っ子」とは称していない。

本稿で紹介した絵画に興味がおありの方は、インターネットで検索してみてください。大体の作品は閲覧できます。

お詫びと訂正  
194号  
30面  
雑文雑談  
「築地清方」  
2段目右から1行目  
挿絵画家 ↓ 挿絵画家  
お詫びして訂正させていただきます。

千葉大学 るのほな同窓会 会員の皆様へ  
「会員総合補償制度」のご案内  
保険期間：2024年3月1日午後4時～2025年3月1日午後4時(中途加入随時受付)  
支払限度額が拡大！医療業務中の万ーに備えて  
医師賠償責任保険(勤務医向け)  
医療の遂行に起因して、万一患者の身体に障害を与えてしまった場合(死亡を含む)にその法律上の損害賠償責任のご負担を補償します。出張診療中も監督責任を問われた場合も対象。  
対人1事故につき支払限度額 3億円(保険期間中9億円) Z3タイプ登場  
PIONEER 株式会社パイオニア  
Tel 0120-36-8442 Fax 0120-36-1061  
https://www.pioneeritd.com/



この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよきお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししております保険約款および特約によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。  
【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社 (担当部) 医療・福祉法人部 Tel: 03-3515-4143 (平日 9:00~17:00) 2024年6月 24TC-001195

## 令和6年度 千葉大学医師会 日本医師会認定産業医研修会 基礎（後期・実地）・生涯（更新・実地）開催のご案内

標記研修会を下記の通り開催いたしますのでご参加下さいますようご案内申し上げます。

本研修会は日本医師会認定産業医制度における認定産業医になるための研修及び更新を希望する医師の研修です。

1. 主 催：千葉大学医師会
2. 日 時：令和6年11月20日（水）18時～20時
3. 場 所：千葉大学医学部・医学系総合研究棟3階  
第1講義室  
千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学亥鼻キャンパス内  
JR千葉駅東口  
7番バス乗り場から京成バスを利用15分、  
「千葉大医学部・薬学部入口」下車 徒歩1分  
※ご来場の際は公共の交通機関をご利用願います。



医学系総合研究棟

4. 定 員：70名
5. 受講料：千葉大学医師会員 無料、非会員：2,000円（当日、現金のみ）
6. 申込方法：下記URLまたは二次元コードよりお申込みください。  
申込URL：<https://forms.gle/hahv2UvStxbxyBqHA>  
※その他、裏面の【FAX専用申込書】をご利用いただくか、  
下記事務局までメール又はお電話にてご連絡ください。



7. 申込期限：令和6年11月1日（金）※定員に達しない場合は期日以降も受付いたします。
8. 研修内容：基礎（後期1単位・実地1単位）又は生涯（更新1単位・実地1単位） 申請中

### 「最近の労働衛生行政について」「作業環境測定実習」

千葉大学大学院医学研究院 環境労働衛生学 教授 諏訪園 靖  
同 准教授 能 川 和 浩  
同 助 教 渡 邊 由 芙 香

※生涯教育講座のCC：6. 医療制度と法律 1単位、11. 予防と保健 1単位が取得可能

※定員になり次第締め切ります。

※受講票は発行しませんが、申込み受付後、事務局よりメール等により受付連絡をいたします。

※受講シールは当日研修会終了後に手交いたします。

申込・問合せ：千葉大学医師会 事務局

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・ゐのはな同窓会事務室内

Tel：043-202-3755 Fax：043-202-3757 e-mail：ishikai@c-med.org

### 令和5年度 第3回理事会議事要旨抜粋 (Zoom利用によるWeb会議)

日時：令和6年2月22日

(木) 18時より

出席者：

吉原俊雄(会長)

栗原正利(副会長)

中村真人(副会長)

白澤 浩(副会長)

大井利夫(参与)

赤倉功一郎(安西尚彦)

石川昭雄(伊藤彰一)

井上賢治(黒木春郎)

齊藤光江(諏訪敏一)

諏訪園靖(高橋宏和)

鶴田好孝(西川哲男)

林田和也(ピアス洋子)

星野 聡(松前孝幸)

三澤園子(三科孝夫)

宮本恒彦(森本直樹)

(敬称略)

吉原俊雄会長が座長となり協議が進められた。

#### 議題

##### 1. 報告事項

###### (1) 予算執行状況(中間報告)

諏訪園靖会計担当理事より資料に基づき、収入については、会費は現時点で昨年と同様な納入率であること。一般寄附金として故福田康一郎先生ご遺族から、服部孝道先生の著書を同窓会経由で販売した代金の寄附があり、特別寄附金・メモリアル事業 DVD の寄附

は継続しており、3年毎の名簿作成による広告掲載料があったこと。支出については、総会費は会場とハイブリッド開催し、ほぼ予算どおりであり、理事会、委員

会費についてはWeb会議のためZoom利用料金を支出予定であること。報奨金(謝金等)は税理士、会計監事、例会時の会費徴収に対する教室お礼として支出し、会報・会誌については、ほぼ予算どおりであり、図書館助成金は年度末の支出となること。支部活性化経費は9支部(近畿、東京、中京、茨城、神奈川、静岡、埼玉、栃木、大学)に支援し、同窓サポートプロジェクト経費は「千葉性暴力被害支援センターちさと」法人会員費、卒後50年感謝状、卒後25年激励状、記念メダル、ホームカミングデー開催費用等であること。メモリアル事業では、旧本館DVD振込用紙付きパンフレット作成、胸像製作手付金を支出したこと。以上の事が説明され、承認された。

(2) 医学部旧本館DVD寄附状況  
吉原会長から寄附者が1,340名以上、金額が69

0万円を超えた事が報告され、今後も様々な場面での周知が必要であり、情報発信方法について検討する事が述べられた。

###### (3) ホームカミングデー報告

令和5年11月19日(日) 医学系総合研究棟3F第1講義室にて開催され、卒後50年、25年の他に卒後60年の参加希望もあり同窓会役員合わせて67名の出席者があり、和やかな会で、参加者からも好評であったことが報告された。

###### (4) 教授就任資料

令和6年度のホームカミングデーは昭和49年卒、平成11年卒が対象である。

##### 2. 協議事項

###### (1) 令和6年度行事予定

吉原会長より資料に基づき、理事会について年1回は対面での開催を予定したため、4月の理事会を総会開催会場と同ビラストシティカンファレンス・丸の内にて開催する事が説明された。他の予定についても説明があり、行事予定が承認された。

###### (2) 令和6年度総会について

令和6年6月8日(土)にトラストシティカンファ

レンス・丸の内にて開催。

総会は引き続きハイブリッド開催とする。なのはな同窓会賞功労賞・上田真喜子氏(昭50)、社会貢献賞・山崎章郎氏(昭50)が候補として推挙され承認された。

###### (3) 令和6年度役員選出について

吉原会長より資料に基づき、東京なのはな会赤倉功一郎氏(昭59)が静岡に異動され静岡なのはな会の理事に就任を依頼、東京なのはな会には新たな理事の推薦を依頼している事が報告され、会務分担については会報・編集部責任者に菱木知郎氏(平5)、学年幹事に令和6年卒業生2名が加わり、承認された。理事の少ない近畿なのはな会にも新たな理事の推薦を依頼する事とした。

###### (4) 令和6年度予算編成

諏訪園理事より資料に基づき、令和6年度の予算編成について説明があった。委員会費は編集委員会の対面開催予定のため増額、旅費は胸像制作映像撮影のため増額。メモリアル事業費として胸像再建費用(残金)、プレート制作費、記念文集、歴史年表制作費等を予定し

ている。

(5) 医学部150周年記念(胸像再建、記念文集、歴史年表)  
栗原正利副会長より資料に基づき、長尾精一胸像制作の映像を撮影し、なのはな同窓会HPに公開する案が説明された。

吉原会長より記念文集原稿がほぼ揃ったため、今後は冊子の装丁、発行部数について検討するとの説明があり、平成10年卒くらいまで送付して、その後ホームカミングデーにて配布との意見があった。文集最終ページは副会長等の言葉で結ぶ事が提案された。

白澤浩副会長より歴史年表は展示用とデジタル画像の2種類作成している事。シンポジウムの開催については胸像あるいは記念文集完成と合わせての開催を予定している事が説明された。

###### (6) DVD寄附者数の同窓会報掲載について

吉原会長より、寄附を募る際に名前の掲載について承認の承諾がなかったため、新たにその確認を取る事は難しい事が説明された。寄附者数をなのはな同窓会報に資料のような年別の形式で掲載、会員以外の寄附者数も加えて掲載する事が承認された。

日時：令和6年4月24日

(水) 18時より

出席者：

吉原俊雄(会長)

栗原正利(副会長)

伊藤達雄(参与)

吉川廣和(参与)

幡野雅彦(会計監事)

安西尚彦(石川昭雄)

甲賀かをり(黒木春郎)

齊藤光江(鈴木 守)

諏訪敏一(諏訪園靖)

高橋宏和(田邊政裕)

星野 聡(松前孝幸)

三科孝夫(横須賀忠)

北野慎一郎

(令和6年新理事)

委任状：18名

(敬称略)

吉原俊雄会長が座長となり協議が進められた。

#### 議題

##### 1. 報告事項

###### (1) 医学部旧本館DVD寄附状況

吉原俊雄会長より令和6年3月末現在での寄附者、寄附金額が報告された。千葉日報、東京新聞にDVDの記事が掲載された事が述べられ、寄附状況については学年別の人数、会員外の寄附者人数を会報に掲載す

る事が説明された。

###### 2. 協議事項

(1) 名譽会員の推薦について  
吉原会長より資料に基づき、神奈川なのはな会、東京なのはな会より推薦された旨の説明があり、候補者の推薦基準を満たしているとして2名を名譽会員に推挙することが承認された。

###### (2) 令和5年度決算報告

###### 1 決算報告

諏訪園靖理事より資料に基づき令和5年度の決算報告があり、収入については会費収入が例会等による納入が少なく昨年より減少、事業収入は例年どおり、個人、卒後50周年基金、メモリアル事業(DVD)の寄附があり、会報関連の寄附については来年度に納入される事になっており、今年度は名簿作成時の広告掲載料収入があったこと。支出については総会費、理事会費は、ほぼ例年どおり、旅費は胸像再建、制作工程撮影のため高岡市に赴いたことによる支出である。助成金は例年どおり、支部活性化事業費は10支部(近畿、東京、中京、茨城、神奈川、静岡、埼玉、栃木、大学、千葉)に支援し、同窓サポ-



トプロジェクト経費は千葉性暴力被害支援ちさとの会費、卒後50年記念メダルやホームカミングデー開催経費など、メモリアル事業は旧本館DVDパンフレット作成、胸像作成の手付金などを支出した。積立金については同窓会館設備準備金(メモリアル事業)300万円を積立てたことなどが説明され、承認された。

**2 監査報告**  
 幡野雅彦会計監事より、令和5年度の会計監査を実施したところ適正であることが報告され、岩倉弘毅会計監事からも報告が届いている事が説明され承認された。

**(3) 令和5年度事業計画**  
 安西尚彦理事より資料に基づき、令和5年度とほぼ同等の事業計画について説明があり、承認された。

**(4) 令和6年度予算案**  
 諏訪園理事より資料に基づき令和6年度の予算について説明があり、収入については、ほぼ例年どおりであるが、135周年記念基金第2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に支出する。支出については、総会費、委員会費を増額、旅費は胸像制作工程のビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、メモリアル事業費は胸像再建、式典費用等のため増額した事が説明され、承認された。

**(5) 令和6年度役員について**  
 吉原会長より資料に基づき新理事候補として神奈川なのはな会より北野慎一郎氏(昭50)が推薦され承認された。新理事 北野慎一郎氏から挨拶いただいた。

**(6) んのはな同窓会賞選考結果**  
 吉原会長より資料に基づき、んのはな同窓会賞の候補者についての説明があり、功労賞に上田真喜子氏(昭50)、社会貢献賞に山崎章郎氏(昭50)を推挙することとした。

**(7) んのはな同窓会賞規定について**  
 吉原会長より資料に基づき、規定に「申請なき場合は総務会・理事会にて候補者を決定する事ができる」を加える事が承認された。

**(8) 総会について**  
 吉原会長から総会案内のカラーパンフレット(裏面に地図入り)について説明があり、紹介者、司会者も掲載することとしたこと、本年もハイブリッド開催とすること、講演者は池田啓氏、奥村康氏に依頼した事が報告され、承認された。

カミングデーについて医学部・附属病院との共催の提案があり、大学と相談し進めていく事とした。

歴史年表について、タイトルは「千葉医学歴史年表」とし、副題については「諸先輩の撓ゆまぬ努力は成生発展して今日に至り、また今後及び(鈴木五郎)」が示され、デジタル画像についてはHPに掲載を予定している事が説明された。

シンポジウムについては参加者、開催日など今後検討する事とした。

記念文集については白澤浩副会長が中心となって進めており、同窓会員以外からの投稿もあり年代順に大きな章立てをして印刷会社と相談して進めていく事が説明された。

栗原正利副会長より胸像再建について、長尾精一先生の略歴、胸像が高村光雲作であること、戦時中、金属回収令により胸像が供出されてしまったこと、85周年時に台座のレリーフを作成したことなどが説明された。

胸像作成の工程写真、その年に起きた事も映像に入れるため能登半島地震被害の様子も映像に残している事が説明された。碑文については総務会にて承認されたことが報告された。

田邊政裕理事よりホーム

**令和6年度 んのはな同窓会総会議事要旨**

日時：令和6年6月8日(土) 14時30分より

場所：トラスティティカンファレンス・丸の内Z館11階

会場とWebのハイブリッド開催

出席者：76名(会場46名、オンライン30名)

委任状：683名

安西尚彦理事の司会により開会となり、まず物故者70名に黙祷を捧げた。吉原俊雄会長の挨拶の後、議事が進められた。

**(1) 名誉会員の推薦について**  
 吉原会長より内規に基づき推挙された2名の会員について説明があり承認された。(5面に掲載)

**(2) 年次活動について(報告事項)**  
 ①庶務部報告  
 吉原会長より令和5年度の各会議開催が報告された。

②事業部報告  
 吉原会長より、同窓会賞の授与、同窓会報の発行、同窓サポートプロジェクト、各種助成、メモリアル事業について報告された。

**(3) 令和5年度決算**  
 ①決算報告  
 諏訪園理事より、収入、事業収入についてはほぼ例年通り、寄附金は個人、卒後50周年基金、メモリアル事業(DVD)、名簿作成時の広告掲載料であり、支出は総会費、理事会費で例年通り、旅費は胸像再建のため高岡市に赴いたためである。助成金は10支部に支援。同窓サポートプロジェクトは、ホームカミングデー開催経費等、メモリアル事業はDVDパンフレット作成、胸像作製手付金等を支出した。同窓会館設備準備金

**(4) 令和6年度事業計画**  
 安西理事より令和5年度とほぼ同等の事業計画であるとの説明があり承認された。

**(5) 令和6年度予算案**  
 諏訪園理事より令和6年度の予算案について、収入はほぼ例年どおりであるが、135周年記念事業基金第

**(6) 令和6年度役員**  
 吉原会長より、前年度役員の再任、新理事として神奈川なのはな会、東京るのはな会から推薦され、承認された。

**(7) んのはな同窓会賞規定**  
 吉原会長より、規定に「申請なき場合は総務会・理事会にて候補者を決定す

る」との追加説明があり、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

2期工事分138万円が千葉大学基金より入金予定であり、記念文集作成に充当する。支出は総会費、委員会費は増額、旅費は胸像作製ビデオ撮影のため増額、通信費は郵便料金値上げのため増額、学生活動助成金は部活動助成支援を加え増額したことが説明され、承認された。

The Asian Pacific Association for the Study of the Liver  
**APASL Oncology 2024 Chiba**  
*Genomics Meets Immunology: Interdisciplinary Approach for Liver Cancer*  
 2024 September 24-25 (Tuesday) (Wednesday)  
 Venue: Sheraton Grande Tokyo Bay Hotel, Chiba, Japan  
 President: Naoya Kato M.D., Ph.D., Professor, Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, Chiba University  
 www.apasl-oncology2024.org

### 静岡みのはな会 令和6年度 総会のお知らせ

日時：令和6年8月3日（土）  
14：00～19：00  
会場：ホテルグランヒルズ静岡  
学術講演会：15：00より  
座長：聖隷袋井市民病院 宮本 恒彦（昭54）  
講師：日産厚生会 玉川病院医学研究所  
所長 気胸研究センター長  
栗原 正利（昭54）  
演題1：「気胸とびまん性嚢胞性肺疾患  
－最近の話題－」  
2：「るのほな同窓会役員は燃えている」

ることができ「るのほな」を加えることが説明され、承認された。  
(8)医学部150周年記念  
栗原正利副会長より胸像再建について、長尾精一先生の略歴、胸像が高村光雲作であること、戦時中、金属回収令により胸像が供出されてしまったこと、85周年時に台座のレリーフを作成したことが説明された。胸像作成の工程写真、その年に起きた事も映像に入れるため能登半島地震被害の様子も映像に残している事が説明され、その1部を会場に流された。碑文についても紹介され、11月に開幕式を予定している事が

説明された。白澤浩副会長より記念文集の作成状況について、千葉医学歴史年表について説明された。  
亥鼻祭実行委員会学生の挨拶の後、安西理事の辞により閉会された。  
るのほな同窓会賞表彰式  
吉原会長の司会により、栗原正利副会長から社会員献賞受賞者山崎章郎氏について、齊藤光江理事により功労賞受賞者上田真喜子氏についてそれぞれ紹介され表彰式が行われた。吉原会長より表彰盾と副賞が授与された。  
特別顧問挨拶（ビデオメッセージ）  
吉原会長の紹介で、三木

隆司千葉大学大学院医学研究院長・医学部長と大島精司千葉大学医学部附属病院長よりビデオメッセージをいただいた。  
講演  
座長横須賀忠理事の紹介で「自己免疫性疾患の脱ステロイド治療」と題して池田敬氏、吉原会長の紹介で「我が千葉大学」と題して奥村康氏による講演が行われた。



お詫びと訂正  
会員名簿2024  
(令和6年)  
140頁  
加瀬川 均(昭55)  
勤務先  
正・国際医療福祉大学三田病院 心臓外科  
誤・赤坂虎ノ門クリニック 循環器内科  
お詫びして訂正させていただきます。

#### 令和6年度予算

収入の部	款 項 目	予算額 (円)
	会 費 等	18,600,000
	事業収入(註1)	7,300,000
	他会計より受入	1,000
	寄 付 金	1,631,000
	基金より取崩し(註2)	6,000,000
	雑 収 入	16,000
	(当期取入計)	33,548,000
	前年度繰越金受入	12,956,166
	収入合計	46,504,166

支出の部	款項目(節)	予算額 (円)
	総 務 費(註3)	14,600,000
	事業費(註4)	23,651,000
	事業税等	1,600,000
	予 備 費	6,553,166
	積 立 金	100,000
	次期繰越金	
	支出合計	46,504,166

#### 令和5年度決算報告

収入の部	款 項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (円)
	会 費 等	18,800,000	17,124,156	-1,675,844
	事業収入(註1)	7,300,000	7,648,420	348,420
	他会計より受入	1,000	254	-746
	寄 付 金	250,000	1,994,100	1,744,100
	基金より取崩し(註2)	5,000,000	1,902,822	-3,097,178
	雑 収 入	16,000	859,664	843,664
	前年度繰越金受入	13,626,514	13,626,514	
	収入合計	44,993,514	43,155,930	-1,837,584

支出の部	款項目(節)	予算額 (円)	決算額 (円)	対予算額 (円)
	総 務 費(註3)	13,700,000	10,762,131	-2,937,869
	事業費(註4)	21,270,000	14,765,733	-6,504,267
	事業税等	1,600,000	1,571,900	-28,100
	予 備 費	8,323,514	0	-8,323,514
	積 立 金	100,000	3,100,000	3,000,000
	次期繰越金		12,956,166	12,956,166
	支出合計	44,993,514	43,155,930	-1,837,584

#### 註1～4：収入、支出の主要細目等

	款 項 目		令和6年度予算	令和5年度予算		
収入の部	(註1) 事業収入	会員総合補償制度集金事務費	7,300,000	7,300,000		
	(註2) 基金より取り崩し	同窓会基金よりメモリアル事業に充当	6,000,000	5,000,000		
支出の部	(註3)	総務費	会議費	4,500,000	4,000,000	
		人件費	7,000,000	7,000,000		
		その他	3,100,000	2,700,000		
	(註4)	事業費	会報・会誌	5,700,000	5,700,000	
			学事奨励	・るのほな賞	550,000	550,000
			・るのほな美術展	200,000	200,000	
			・猪之鼻奨学会	400,000	400,000	
			各種助成	・附属図書館	800,000	800,000
			・白衣式	750,000	750,000	
			・国際交流支援	100,000	100,000	
			・ちばBCRC支援	300,000	300,000	
			・学生活動助成金	200,000	200,000	
			・留学生交流支援費	100,000	0	
			・白菊会	200,000	200,000	
			・支部	4,100,000	4,100,000	
			・同窓サポートプロジェクト	1,800,000	1,800,000	
			・IT関連事業費	500,000	500,000	
			メモリアル事業等	7,381,000	5,000,000	
			その他	590,000	670,000	

# DVD 千葉大学医学部旧本館85年の記憶

ご寄付を賜り誠にありがとうございます。  
学年別等の寄付状況をお知らせいたします。

昭和50年代										昭和40年代										昭和30年代										昭和20年代										〔同窓会員〕									
56年	55年	54年	53年	52年	51年	50年	49年	48年	47年	46年	45年	44年	43年	42年	41年	40年	39年	38年	37年	36年	35年	34年	33年	32年	31年	30年	59年	58年	57年	106名																			
19名	23名	31名	27名	23名	22名	29名	25名	33名	24名	27名	17名	18名	25名	15名	16名	15名	8名	12名	11名	7名	13名	9名	4名	6名	1名	5名	76名	13名	106名																				
平成20年代										平成10年代										平成元～9年										昭和60～63年										DVD 寄付状況 会員 学年別、一般(会員外)等									
21年	20年	19年	18年	17年	16年	15年	14年	13年	12年	11年	10年	9年	8年	7年	6年	5年	4年	3年	2年	元年	63年	62年	61年	60年	59年	58年	57年	106名																					
7名	9名	43名	7名	8名	11名	10名	13名	15名	6名	8名	11名	21名	26名	15名	16名	16名	21名	21名	19名	24名	30名	20名	20名	25名	28名	93名	36名	21名	25名	106名																			
DVD 寄付者総合計 (令和6年3月31日現在) 1449名										各研究領域 (一般)(会員外) 243名										令和2～5年 20名										平成30～31年 9名																			
										一般 109名										5年 5名										29年 8名																			
										千葉大学職員 76名										4年 5名										28年 1名																			
										千葉大学関係者 (旧職員、卒業生家族等) 13名										3年 5名										26年 6名																			
										看護学関係者 6名										2年 5名										25年 5名																			
										医師会職員 1名										令和2～5年 20名										24年 5名																			
										学生 1名										31年 6名										23年 1名																			
																				平成30～31年 9名										22年 1名																			

千葉大学医学部 旧本館 85年の記憶

令和3年10月8日午後7時閉館  
85年の歴史に幕が下ろされた

千葉大学医学部旧本館が85年の歴史に幕を下ろすこととなり、あのはな同窓会はメモリアル事業の中で、その保存について4年に渡り議論を重ねてきた。〔旧本館の記憶を永遠のものにするため映像で残す〕それが同窓会会員の総意だった。旧本館に刻まれた千葉医学の伝統は今も私たち同窓の体に脈々と受け継がれている。完成した記録映画が、先人たちの築いてきた伝統を未来へと継承していく一助となることを祈念する。

千葉大学あのはな同窓会 16代会長 吉原 俊雄 (昭和53年卒業)

企画 千葉大学あのはな同窓会  
制作 WAKE UP LAND

50min 片道1層MPEG-2 COLOR 16:9 複製不能 © 2022 WAKE UP LAND MADE IN JAPAN

DVD VIDEO

千葉大学医学部旧本館 85年の記憶

令和3年10月8日午後7時閉館 85年の歴史に幕が下ろされた

千葉大学医学部 旧本館 85年の記憶

非売品

DVD VIDEO

中小石小磯相森西香秋中島鹿原河安今今佐  
 村林原林野原原田元沢崎山野川関西藤  
 嘉總運靖可茲太真駿隆徳恒輝隆英綾  
 孝介雄典一明碧郎一駿一淳男男久郎六子洋  
 (昭昭昭昭昭昭昭昭(東昭昭昭專(昭(東(昭  
 373736353333313130邦292927252424京女医専・昭23)

おくやみ

佃西中柴松森浅宿谷高安水森前沖清森山  
 内野田原田田谷口田江野万幸博通弘朗彦豊  
 朋敦晃公義正万幸博通弘朗彦豊  
 子徹之一護雄学毅克功二一通弘朗彦豊  
 (平昭(日昭(昭(昭(昭(昭(昭(昭(昭(昭(昭  
 763日本医大・昭61)5854504943424241(長崎大・昭40)403939383737)

### るのほな同窓会費 口座振替ご利用の先生方へ

同窓会会費納入に口座振替をご利用いただき厚くお礼申し上げます。  
 さて、令和6年度同窓会費5,000円をご指定口座より7月22日に振り替えさせていただきます。  
 今後とも同窓会活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

#### 千葉医学100巻1号 2024年2月

千葉医学会奨励賞  
 膠芽腫幹細胞に対する現行治療の有効性評価および免疫学的治療ターゲットの検討 野口駿成 吉岡正揮  
 学 会  
 第1482回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム(第11回桜美会)  
 第1483回千葉医学会例会・第56回麻酔科例会第84回千葉麻酔懇話会第16回ちばBasic & Clinical Research Conference 学生発表抄録  
 編集後記 安西尚彦  
 編集方針ならびに投稿規定  
 Chiba Medical Journal  
 Original Article  
 Pes planovalgus associated with down syndrome, its symptoms, and the effect of brace therapy  
 Tatsuki Kobayashi, Hiroaki Tsuruoka, Kinatsu Fukushima, Atsushi Urata, Masayuki Someya, and Naohisa Kikuchi  
 Chiba Medical Society Award Review  
 Paradigm change in treatments for ANCA-associated vasculitis  
 Shunsuke Furuta

#### 千葉医学100巻2号 2024年4月

症 例  
 特発性食道破裂手術後に発生した難治性膿胸に対する大網充填術 - 特発性食道破裂に対する開腹経食道裂孔手術の功罪 - 田中 元  
 学 会  
 第1491回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会  
 第1495回千葉医学会例会・第23回呼吸器内科例会(第37回呼吸器内科同門会)  
 第1496回千葉医学会例会・第41回脳神経内科学教室例会  
 編集後記 山口 淳  
 第101回千葉医学会総会開催のご案内  
 Chiba Medical Journal  
 Original Short Communication  
 A 7-year longitudinal survey of valproate prescription in women of childbearing age in Japan using a publicly available National Insurance Claims Database Japan  
 Ryuji Suzuka, Daisuke Sato, Tasuku Hashimoto, and Kensuke Yoshimura  
 Editorial Policy and Instructions for Authors

#### 会報195号編集委員

- 諏訪園 靖 (平6) 編集委員長
  - 杉田 克生 (昭54) 飯沼 克博 (昭55)
  - 白澤 浩 (昭57) 剣持 敬 (昭58)
  - 今野 慎 (昭62) 小島 広成 (平3)
  - 宍戸 忠幸 (山梨医大・平8) 大西俊一郎 (平17)
- (敬称略)

### 編集後記

るのほな同窓会報第195号をご覧いただいた皆様、誠にありがとうございます。猛威をふるった新型コロナウイルス感染症も5類移行し、街ではマスクをしている人も大分少なくなってきました。本号では、千葉大学の横手幸太郎学長就任、大鳥精司病院長就任をはじめ、大きな動きが動き、また千葉大学、他大学の教授就任や千葉県内を中心とする中核病院の院長就任など、改めて千葉大学医学部の力を感じております。

私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業後、第二外科(現先端応用外科学)に入局し、千葉社会保険病院、県立佐原病院、国立佐倉病院、国立病院機構千葉東病院など、千葉県内の病院に消化器外科医、移植

一方で、おくやみの欄に磯野可一教授の名前があり、大変残念でつらい気持ちです。磯野教授は、私が在籍した第二外科の教授として長くお世話になりました。私の教授就任に際しても本当に喜んでいただいたことを昨日のことのように覚えております。告別式に列席し、最後の感謝の気持ちを捧げ、焼香をさせていただきました。今後、この千葉大学医学部同窓会報「るのほな」が皆様に情報を届けるのみでなく、千葉大学医学部の今を映す媒体になるよう、編集委員の一人として尽力させていただきます。皆様のご健康と益々のご活躍を祈念いたします。

剣持 敬 (昭和58年卒)